能勢町の大切にしたい生きもの

能勢の里山活力創造推進協議会

令和５年３月

目　　次

１．　本書の概要 …… 2 ページ

２．　対象分類群と総括表 …… 3 ページ

３．　選定種のカテゴリー …… 3 ページ

４．　能勢町の大切にしたい生きもの …… 4 ページ

５．　各分類群の選定種一覧リスト …… 91 ページ

６．　能勢町の生物多様性を保全する上で大切な環境について …… 112 ページ

　　＜コラム＞　淡水紅藻類のカワモズクの仲間 …… 118 ページ

７．　調査体制 …… 119 ページ

１．　本書の概要

能勢町生物多様性地域連携保全活動計画（平成３１年３月に策定）に基づき、能勢町の豊かな自然環境や生物多様性の保全に向けての取り組みを進めている。

令和３から４年にかけて行われた生物多様性基礎調査は、特定非営利活動法人大阪自然史センターを調整役とし、各分野の専門家で能勢町生物多様性基礎調査プロジェクトチームを編成し、能勢町域に分布するとされる生物について文献・標本資料の収集整理、野外での生物調査を行った。

確認された生物を整理し、町内や府内、周辺地域での生息状況や増減傾向、生育環境の減少可能性などを研究者の見解、また昔から能勢町域の自然を観察されてきた町内外の有識者の意見なども含めて総合的に検討評価し、「能勢町の大切にしたい生きもの」を選定した。

「能勢町の大切にしたい生きもの」として選定された種は、376 種となった。この種数は、今回の調査で能勢町から確認されている 3,578 種の 10.5%にあたる。

また、今後の能勢町の生物多様性を保全する上で大切にしていきたい環境についても言及しておきたい。

２．　対象分類群と総括表

今回、選定の対象になった分類群は以下の 12 分野。

1　哺乳類
2　鳥類
3　爬虫類
4　両生類
5　魚類
6　昆虫
7　クモ類
8　淡水産貝類
9　陸産貝類
10　維管束植物
11　コケ植物
12　菌類（主にきのこ）

上記以外の分類群（土壌微生物、微小菌類や変形菌、緑藻植物や車軸藻植物、動植物プランクトンなど）については、知見が不十分なことや調査が困難であるなどの理由から調査対象外とし、今回検討から見送ることとした。

総括表

令和 5（2023）年 3 月

No.	分類群		確認種数	選定種数	絶滅	A ランク	B ランク	C ランク	情報不足	環境省 RDB種	大阪府 RDB種
1	哺乳類		35	11	0	5	3	3	0	4	12
2	鳥類		139	27	0	7	5	15	0	18	35
3	爬虫類		15	5	0	0	0	5	0	2	5
4	両生類		16	7	0	2	4	1	0	5	10
5	魚類		32	15	0	4	5	4	2	9	15
6	昆虫		1,433	85	5	26	17	32	5	43	106
7	クモ類		88	4	0	0	0	0	4	0	2
8･9	淡水産貝類 陸産貝類		90	17	0	1	5	4	7	13	12
10	維管束植物		1,210	155	26	53	43	32	1	38	132
		シダ植物	117	11	3	4	3	1	0	3	9
		裸子植物	11	0	0	0	0	0	0	0	0
		被子植物	1,082	144	23	49	40	31	1	35	123
11	コケ植物		280	35	0	4	11	13	7	4	30
		蘚類	190	26	0	2	8	10	6	3	21
		苔類	88	9	0	2	3	3	1	1	9
		ツノゴケ類	2	0	0	0	0	0	0	0	0
12	菌類		240	15	0	0	3	5	7	6	8
	合計		**3,578**	**376**	**31**	**102**	**96**	**114**	**33**	**142**	**367**

３．　選定種のカテゴリーについて

選定種の評価ランクおよび定義は、以下のとおりとする。

評価ランク	定義	大阪府 RDB 相当
絶滅	既に絶滅したと考えられる種 （３０年以上生息が未確認である）	EX
A ランク	絶滅の危機に瀕している種	CR+EN
B ランク	絶滅の危険が増大している種	VU
C ランク	存続基盤が脆弱な種	NT
情報不足	評価するだけの情報が不足している種	DD

４．　能勢町の大切にしたい生きもの

今回の対象となる 12 分類群の選定上留意した点や今後検討が必要な種、能勢町での特徴、特筆すべき種のトレンド、保全上重要な環境や留意事項などについての総説を掲載する。また、各分類群の選定された種の中で代表的なものについて、評価ランクの理由や保全上の留意点などを解説する。

1　哺乳類 ……5 ページ
2　鳥類 ……9 ページ
3　爬虫類 ……13 ページ
4　両生類 ……15 ページ
5　魚類 ……18 ページ
6　昆虫 ……34 ページ
7　クモ類 ……51 ページ
8　淡水産貝類 ……56 ページ
9　陸産貝類 ……62 ページ
10　維管束植物 ……66 ページ
11　コケ植物 ……80 ページ
12　菌類 ……85 ページ

能勢町の大切にしたい生きもの　**総説＜哺乳類＞**

能勢町の大切にしたい生きもの（以下、レッドリスト）と哺乳類の目録とは、大阪市立自然史博物館による調査と所蔵標本、大阪府のコウモリ研究者による報告・聞き取り、および地元有識者からの聞き取り情報に基づいて作成した。

地元での聞き取りからカワネズミの観察情報を提供いただいたが、残念ながら標本・写真といった客観的な証拠がないため保留とし、今回の目録には含めなかった。大阪府でのカワネズミの確実な記録は、箕面市と河内長野市にしかなく、能勢町に生息していたなら極めて貴重な記録となる。それだけに慎重な扱いが必要と判断した。今後、現地調査や詳しい聞き取りを行い、目録に含めるかの検討を進める必要がある。環境 DNA を用いた調査の可能性も検討する必要があると考える。

また三草山からタイワンリスの情報があったが、客観的な証拠がなく、観察者に確認した上で、目録には載せなかった。外来生物であるタイワンリスが生息していたなら大問題なので、今後注視していく必要がある。

コテングコウモリは、トラップに入ったところを 2022 年に確認された。これが大阪府で初めての記録となった。

一部のコウモリ類やモグラ類の記録がない以外は、能勢町の哺乳類相は、大阪府全体の哺乳類相と変わりがない。

大阪府では、ハタネズミやスミスネズミといったネズミ類の記録は少なく、両方の記録がある能勢町は貴重である。しかし、近年の記録がなく、生息状況を明らかにする必要がある。

洞穴生のコキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリ、ユビナガコウモリ、テングコウモリは、大阪府全体での生息地も数ヶ所しかなく、能勢町では実質１ヶ所に生息するのみである。

キツネとニホンイタチは、大阪府全体では生息地が限定され、かなり希少な種となっているが、能勢町では比較的生息記録が多い。しかしとくにニホンイタチは、今後のシベリアイタチの動向次第では急減する恐れがある。

ハタネズミやスミスネズミといったネズミ類にとっては、山手の農耕地のあり方が重要と考えられる。それ以前に、現在の生息状況を明らかにする必要がある。

洞穴生コウモリが生息する鉱山跡は、保全の必要が高く、モニタリングの継続が望ましい。コテングコウモリは、まずその生息状況を明らかにすることが急務になる。

能勢町には、ヌートリア、ハクビシン、シベリアイタチ、アライグマといった外来哺乳類が生息し、少なくともその一部は増加傾向にある。ヌートリアやアライグマは農業被害を引き起こしている。ハクビシン、シベリアイタチ、アライグマの３種は捕食者であり、地上生の動物などに対する生態系被害が懸念される。重点的な対策が望まれる。また、イノシシやニホンジカの増加による農業被害・生態系被害も問題になっており、適切な個体数管理が求められる。

（担当　和田 岳　大阪市立自然史博物館　動物研究室）

能勢町の大切にしたい生きもの（哺乳類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
テングコウモリ
Murina hilgendorfi</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
鼻孔が管状に突出しているところが、名前の由来。全体に銀色の洞穴生コウモリ

撮影：丸山　健一郎（能勢町産）</td><td>評価理由
能勢町で生息が知られているのは、鉱山跡１ヶ所のみ。そのトンネルが崩れたり、出入り口を塞がれると絶滅する可能性が高い。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
鉱山跡などのトンネルに生息する。
近年、大阪府で記録があるのは、６ヶ所程度にすぎない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
能勢町での生息地は１ヶ所。近年、継続的に調査が行われてきたが、個体数は 20 個体以下と極めて少ない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
テングコウモリが生息する鉱山跡のトンネルは、コキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリ、ユビナガコウモリといった他の洞穴生コウモリの生息地でもあり、あわせて保全が必要。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（哺乳類）

種名（和名・学名） ニホンイタチ *Mustela itatsi*	評価ランク B ランク
形態の特徴 外来生物であるシベリアイタチと似るが、小型で、黄色味が少なく、頬に白い部分がある。	評価理由 かつて大阪平野には、市街地を含めニホンイタチが生息していたが、現在は大型のシベリアイタチに置き換わっている。能勢町でも近年シベリアイタチの記録が増えており、今後ニホンイタチが減少する可能性が高い。
分布情報／生息環境 山林、河川敷、農耕地、人家周辺に広く分布する。家屋にも侵入する。 大阪府では、かつては大阪平野に広く分布していたが、現在は山手と山間部にのみ生息する。	
現在の生息状況／減少の要因 詳しい生息状況は不明だが、河川敷や農耕地周辺ではしばしば見かける。ただし、拾われる礫死体の多くはシベリアイタチになっている。 シベリアイタチの増加が、ニホンイタチの生息に影響を与える可能性がある。	
保全上の留意点／特記事項 シベリアイタチ対策が望まれるが、そのためにはまず、ニホンイタチとシベリアイタチの識別の仕方を普及する必要がある。	

能勢町の大切にしたい生きもの（以下、レッドリスト）と鳥類の目録は、大阪市立自然史博物館による調査、日本野鳥の会大阪支部による大阪府鳥類目録、サシバプロジェクト in 大阪による調査報告、および地元有識者からの聞き取り情報に基づいて作成した。

渡りの時期の通過鳥や、数少ない冬鳥は目録から漏れている可能性があるが、繁殖鳥はおおむね目録に掲載することができたと思われる。

レッドリストの選定においては、おもに海岸で記録されるチュウシャクシギ、とキアシシギ、及びコウノトリやイヌワシは偶発的と判断し、選定対称から外した。また、繁殖記録のないアマサギ、イソシギ、オオヨシキリ、セッカ、トラツグミは、通過鳥または越冬鳥として評価した。もし能勢町での繁殖が確認されたならば、高いランクに評価される可能性がある。

山間部に位置する能勢町では、そもそも水辺の鳥の記録が少ない。その中で、ケリ、イカルチドリ、コチドリ、タマシギの繁殖は注目される。とくに通常、河川中流部の広い砂州で繁殖するイカルチドリの繁殖確認は特筆に値する。また、広い水田地帯に生息することが多いケリ、タマシギ、ヒバリは、山間部である能勢町ではそもそも少なく、今後の動向に注意していく必要がある。

林の鳥としては、ミゾゴイ、ヨタカ、アオバズクといった大阪府全体でも希少な鳥の繁殖が記録されている。また、ハチクマ、ツミ、オオタカ、サシバ、ノスリ、クマタカといった数多くのタカ類の繁殖記録がある。このように大阪府全体の中でも、能勢町は林に生息する希少種の繁殖地として重要である。とくに現時点で大阪府でのノスリの繁殖は、能勢町周辺に限られている。また、大阪府ではオオアカゲラの記録は、ほぼ南部に限られてきた中、能勢町で記録されたことは注目に値する。

従来、大阪府でアカショウビンは数少ない通過鳥であったが、近年、河内長野市で繁殖の可能性が指摘されていた。今回、能勢町において、複数年にわたって繁殖期に滞在していることが明らかになった。これは大阪府で２例目の繁殖地である可能性があり、能勢町のみならず大阪府の鳥類相を考える上で、極めて注目される。

イカルチドリやコチドリなど河川に生息する鳥にとっては、広めの河川敷に砂洲が維持されることが重要になる。またケリやヒバリの繁殖のためにはある程度まとまった水田地域、タマシギについては休耕田などの湿地が存在する必要がある。そもそも能勢町では、こうした水鳥の生息数が少ないので、その生

息地が減少すると、すぐにいなくなる恐れが高い。

能勢町には林で繁殖する希少種が多いが、ミゾゴイやアカショウビンの生息には、湿った谷筋の林が必要である。しかし近年、能勢町ではニホンジカの増加が顕著であり、林床の植物の採食に伴って、林内の乾燥化の影響が懸念される。また、林床の改変は、林内の地上で営巣するヨタカへの影響も大きいと考えられる。その他の林で暮らす鳥類にとっても、シカの増加は影響を与えている可能性がある。

大阪府全体で過去 40 年の間に急減したことが指摘されているサシバは、棚田のある谷筋に生息していることが多い。しかし、棚田の放棄や、シカ柵の設置が、その生息に大きな影響を与えている可能性がある。また、両生爬虫類の減少は、食物の減少につながる。サシバの保全を考える上では、両生類が豊富な湿地の維持や、両生爬虫類の強力な捕食者となるアライグマの個体数コントロールが望まれる。

（担当　和田 岳　大阪市立自然史博物館　動物研究室）

能勢町の大切にしたい生きもの（鳥類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
サシバ
Butastur indicus</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
中型のタカで、喉の中央に１本の縦線がある。夏鳥で、繁殖期には特徴的なキンミーと聞こえる声で鳴く。</td><td>評価理由
1980 年頃までは普通のタカだったが、その後急減した。近年、能勢町での繁殖は確認されていない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
棚田のある谷筋の林におもに生息する。
1980 年頃までは、大阪府の山林で一番普通のタカとされていたが、その後急減した。2017 年の調査では、南河内では繁殖ペアがある程度確認されたが、北摂ではほとんど繁殖ペアが確認されなかった。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
1980 年頃までは普通のタカだったと考えられるが、その後急減し、近年はわずかに生息確認があるのみ。近年の確実な繁殖記録はない。
減少原因ははっきりしないが、棚田など山際の水田環境の変化が指摘されることが多い。シカ柵が影響を与えているという指摘もある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
ハチクマ、オオタカ、ノスリ、クマタカといった他のタカ類とあわせて、継続的な繁殖状況のモニタリングが必要。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（鳥類）

種名（和名・学名） アカショウビン *Halcyon coromanda*	評価ランク A ランク
形態の特徴 　中型のカワセミ類。全身真っ赤で、腰に少し青い羽根が混じる。	評価理由 　能勢町では渡りの季節の記録のみだったが、今回数年にわたる繁殖期の生息が記録され、繁殖の可能性が高いと判断された。繁殖しているとしても、生息数は極めて少ないと考えられる。
分布情報／生息環境 　両生類やサワガニなど地上生の小動物が豊富な谷沿いに生息する。 　大阪府では、今まで河内長野市でのみ繁殖の可能性が指摘されていた。能勢町で繁殖しているとしたら、大阪府２例目となる。	
現在の生息状況／減少の要因 　複数年に渡って繁殖期に滞在しているとされるので、少なくとも１つがいが継続的に渡来・繁殖している可能性が高い。 　シカの増加によって、林が乾燥し、林床や谷筋の小動物が減少するとアカショウビンの生息にも支障をきたす恐れがある。	

能勢町の大切にしたい生きもの　**総説＜爬虫類＞**

能勢町の大切にしたい生きもの（以下、レッドリスト）と爬虫類の目録は、大阪市立自然史博物館による調査と所蔵標本、および地元有識者からの聞き取り情報に基づいて作成した。

外来生物と考えられるミナミイシガメは、従来大阪府北部の山間部に生息するとされており、能勢町での生息の可能性に注目したが、今回生息情報はなかった。

ウミガメ類とタワヤモリの記録がない以外は、能勢町の爬虫類相は、大阪府全体の爬虫類相と変わりがない。ただし、広い止水が存在しない能勢町は、カメ類の生息が少ない傾向がある。

能勢町は比較的豊かな両生類相が維持されており、両生類食のヤマカガシやヒバカリの生息記録も多い。比較的個体数が少ないとされるタカチホヘビやシロマダラの生息も確認されている。

現時点で保全上の配慮が必要な種は少ないが、カエルが豊富な水田の維持は、ヤマカガシやヒバカリなど両生類に依存する種にとって重要である。ニホンイシガメには、棚田上部の池が重要。落葉樹林の谷筋はタカチホヘビの生息に大切であり、豊かな爬虫類相の存在がシロマダラの生息を保証する。

（担当　和田 岳　大阪市立自然史博物館　動物研究室）

能勢町の大切にしたい生きもの（爬虫類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ヤマカガシ
Rhabdophis tigrinus</td><td>評価ランク
C ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
　中型のヘビで、鱗にキールがあり、腹側は通常黄色味を帯びる。背側には、若い頃は赤い模様が入るが、成体の多くは濃黄褐色。黄色味のない個体や、黒化個体もみられる。

撮影：丸山　健一郎（能勢町産）</td><td>評価理由
　中長期的に水田は減少傾向にあり、それにともなって両生類も減少していくと考えられる。その影響を直接的に受ける両生類食のヤマカガシもまた、減少傾向にあると考えられる。。
　ヤマカガシの生息が維持されることは、健全な両生類相が維持されている一つの指標にもなる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
　両生類の豊富な水田と、その周辺の草地・林に生息する。
　大阪府では、両生類の減少にともなって、一番減少したヘビ類。平野部からほぼ姿を消し、山手と山間部にのみ生息している。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
　能勢町全域に生息する。
　水田の減少にともなって減少傾向。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
　おとなしいヘビだが、毒ヘビなので、捕まえる際は注意が必要で、飼育のためには届け出が必要。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（以下、レッドリスト）と両生類の目録は、大阪市立自然史博物館による調査と所蔵標本、および地元有識者からの聞き取り情報に基づいて作成した。

カスミサンショウウオは 2019 年に複数種に分割され、能勢町の個体群がどの種にあたるのかは確認されていないが、その分布からセトウチサンショウウオとして扱った。今後確認されることが望ましい。2022 年には、タゴガエルが、タゴガエルとヒメタゴガエルに分割され、能勢町には２種とも分布している可能性があるが、今回はタゴガエルだけをリストに含めた。今後、ヒメタゴガエルの生息の有無を確認する必要がある。

大阪府では、全体的に両生類の減少が目立つが、その中で能勢町は比較的豊かな両生類相と個体数が維持されている。大阪府ではレッドリストにあげられるトノサマガエルやシュレーゲルアオガエルは、能勢町のレッドリストには選定しなかったのはその一つの表れである。アカハライモリも現時点では能勢町では比較的容易に見つけられるが、今後の生息状況には注目しておく必要がある。

大阪府ではオオサンショウウオやヒダサンショウウオは北摂にしか分布していない。セトウチサンショウウオとナゴヤダルマガエルは、北摂の中でもごく一部にしか生息していない。その両方の生息が確認されている能勢町は、大阪府の両生類相を考える上で、とても重要な位置を占める。

セトウチサンショウウオ、ニホンヒキガエル、ヤマアカガエルの産卵には、冬季に水のたまった水田、浅いため池など、浅い水域が冬季に存在することが必要になる。冬季湛水の水田や水路の存在は、アカハライモリやナゴヤダルマガエルの生息にも重要である。

近年、日本各地でアライグマによる捕食が、両生類個体群に大きなダメージを与えていることが明らかになっている。能勢町における状況は明らかではないが、アライグマの増加は大きな懸念事項であり、できる限りの対策が望まれる。またシカの増加による林床の乾燥化も、林床でくらす多くの両生類に大きな影響を与えている可能性が高い。

セトウチサンショウウオ、ヤマアカガエルは今回繁殖確認ができていない。ナゴヤダルマガエルの生息確認がされている場所は限られているが、生息地が見逃されている可能性がある。この３種は重点的に情報収集の必要がある。

（担当　和田 岳　大阪市立自然史博物館　動物研究室）

能勢町の大切にしたい生きもの（両生類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
オオサンショウウオ
Andrias japonicus</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
　世界最大の両生類。色合いは黒色と黄褐色のまだら。少なくとも成体は間違えようがない。

撮影：藤田　俊兒</td><td>評価理由
　河川改修によって、巣穴になる場所が失われることがある。また堰堤によって移動を阻まれると、個体群が分断され中長期的に個体群の維持が難しくなる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
　ある程度川幅のある河川に生息する。
　大阪府で個体群が存在するのは、能勢町のほか、箕面川や安威川など北摂の一部の河川に限られる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
　近年の詳しい生息状況調査は行われていない。まずは現状把握が望まれる。
　減少の原因としては、河川改修が考えられる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
　チュウゴクオオサンショウウオが持ち込まれると、交雑する恐れがある。
　各地で、幼体が見つからない個体群が知られている。成体が生息していても、繁殖がうまくいっていない可能性があり、繁殖状況を含めた現状把握が必要。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（両生類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ナゴヤダルマガエル
Pelophylax porosus</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
　トノサマガエルに似ているが、寸詰まりの体型で、後肢に短め。背の隆起は弱く、腹側に模様がある。

撮影：丸山　健一郎（町外の産地での写真）</td><td>評価理由
　生息地が極めて少なく、その数地点がなくなると絶滅の可能性が高い。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
　水田に生息する。
　大阪府では、1970 年代までは各地に生息していたが、その後急減し、1990 年代以降、確実な記録があるのは、高槻市と能勢町のみ。能勢町で知られている生息地は数地点しかないが、局所的に分布するため、今後新たな生息地が見つかる可能性もある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
　過去 20 年の間に記録された場所は数地点にすぎない。他に生息地がないか、調査の必要がある。
　減少の原因としては、圃場整備にともなう水路のコンクリート化が指摘されることがある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
　数少ない生息地は、確実に残すことが必要。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの　**総説＜魚類＞**

能勢町には海がないため、生息する魚類はすべて“淡水魚”であるが、既存の文献や調査記録から外来種を含めて 32 分類群がリストアップできた。能勢町内の水系には猪名川水系、淀川水系、武庫川水系、加古川水系の４水系が含まれ、このうち魚類に関する調査が進んでいるのは猪名川水系のみである。同水系では大路次川・山辺川・田尻川に漁業権が設定されており（田尻川は後に変更)、水産振興の目的でアユ、ニジマスが放流されているため、これらの河川では放流魚以外の天然魚も含めた魚類データが 1960 年代から残っている。

能勢町の魚類相の特徴としては、比較的標高の高い地域であるため、アカザ、カジカ、アマゴ、ナガレホトケドジョウなど冷水性の魚類が多いことである。特に能勢町レッドリストで A ランクに指定したカジカは、大阪府内で安定的に生息確認できているのは能勢町以外に見当たらない。また、同じく A ランクのナガレホトケドジョウも能勢町及び周辺地域の河川上流域のごく限られた場所にしか生息しない。なお、自然繁殖が確認されているアマゴは由来が不明で、放流起源の可能性を考えている。

平地では流れの緩やかな河川が多く、水田が残っている地域もあり、ミナミメダカ、ドジョウ、ナマズ、タモロコ、フナ類など、“里の魚”が多く生息する。ムギツクやイトモロコが多いのも特徴の１つである。水田生態系との関連では、ため池などにも多くの淡水魚を産すると推測されるものの、町内の止水域の調査や記録は殆どなく無く、実態は不明である。

なお、能勢町の河川はいずれも規模が大きくなく、河川改修などの影響を受けやすい。すでに多くの河川では護岸工事が施工され、堰堤等も設置されており、魚類への影響が現れていると考えているが、今後の改修が進むとさらに生息環境が悪化することが懸念される。

また、猪名川水系や武庫川水系では一庫ダム・千苅ダムにより河川―海域の連続性が失われているため、アユやニホンウナギの天然遡上は絶望的である。しかし、加古川水系・淀川水系は大きなダムがなく、ニホンウナギ遡上の可能性も否定しきれない。ちなみにアユについては、大路次川水系で一庫ダムに陸封化したアユが生息していることが知られている。

なお、ニホンウナギは、絶滅が断定できないため A ランクに指定したが、能勢町内の明確な生息記録は存在せず、天満和久氏による地域住民からの聞き取りで「かつて能勢でも採れた」といった伝聞があるのみである。また、今回 A ランクに指定したスナヤツメも古い文献で生息が示されているものの詳細は不明であったが、2021 年に猪名川水系で採集された個体が詳細な位置情報とともに高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）に収蔵されている。また、能勢町に隣接する武庫川水系の篠山川の上流に生息するという文献もあるため、町内北部の武庫川水系の細流にも生息するかもしれない。

（担当　平松　和也　大阪府立環境農林水産総合研究所　生物多様性センター）

能勢町の大切にしたい生きもの（魚類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
スナヤツメ南方種
Lethenteron sp. S</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

写真は能勢町外産の個体
写真提供；（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所</td><td>評価理由
スナヤツメは、北方種と南方種の 2 種類に大別されることが明らかにされており、大阪府内には南方種が生息するとされている。府内の生息情報は極めて少なく、能勢町内では猪名川水系での記録がある。町内の詳細な分布は不明であるが、個体数は極めて少ないと考えられる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
2021 年に能勢町内（猪名川水系）で採取された標本が高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）に収蔵されている。兵庫県側の武庫川水系、加古川水系にも生息情報があるため、能勢町内の同水系にも生息している可能性がある。
河川中流域の湧水や伏流水のある水の澄んだ流れの緩やかな場所に生息し、砂泥底を好む。アンモシーテスと呼ばれる幼生は泥中の有機物、リターやケイソウ類を食べるが、成魚は餌を食べない。富栄養化した場所には生息しない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
貧栄養の水質を好むため、水質悪化は本種の減少要因となる。また、河川内での湧水や伏流水の減少も悪影響を与える。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
河川内の湧水や伏流水は河床構造や、河川周辺の地下水流に影響されるため、河川改修や堰堤工事等に際して地下水等の分断や阻害に注意が必要。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（魚類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ナガレホトケドジョウ
Lefua torrentis</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

写真は能勢町外の個体
写真提供；（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所</td><td>評価理由
本種の生息域は河川上流の細流に限定されており、能勢町内でも個体数は少ない。小型で岩陰などに隠れていることが多いため、生息地が発見されないまま、生息状況が悪化している場所も存在する可能性がある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
渓畔林が豊かな、流れがあまり早くない小渓流に生息する。淵にたまったリターや礫の下に潜んでいることが多く、姿を見かけることは少ない。能勢町内では武庫川水系・加古川水系で生息記録があるが、隣接する豊能町では猪名川水系の生息情報があるため、能勢町内の同水系でも生息の可能性がある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
砂防堰堤の建設や、林道工事などによる生息場所への土砂流入、温暖化による河川水温の上昇など。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
各産地は小規模で採集などの影響を受けやすいため、生息場所の詳細を秘匿する必要がある。一方、見つけにくい種であるため、未知の生息場所も存在する可能性があり、詳細な調査で町内の生息状況を明らかにする必要がある。
また、同所的に混在できる魚種が限られるので、生息場所周辺へのマス類などの放流などは控えることが必要。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（魚類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ニホンウナギ
Anguilla japonica</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

写真は能勢町外の個体
写真提供；（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所</td><td>評価理由
絶滅が推定されるが、生息記録が乏しく絶滅が特定できないことや淀川水系、加古川水系からの遡上の可能性を否定できないため、暫定的に A ランクとする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
捕獲経験があるという能勢町民からの聞き取り以外の記録がなく、分布は不明。隣接する猪名川町に「うなぎの森」といった地名も残っており、また隣接する豊能町の初谷渓谷に生息していたとの未確認情報がある。淀川水系・加古川水系からの遡上も可能性がある。府内の他地域でウナギが生息する河川から考えて、遡上が可能であれば本種の生息は現在でも可能であると推定する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
ダム等に河川構造物による河川の遡上・降河阻害</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
水産対象魚種であるため、放流や飼育個体の逸出が発見される場合が想定されるが、能勢町の在来個体群との判別は不可能。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（魚類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
カジカ大卵型
Cottus pollux</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

写真提供；（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所</td><td>評価理由
大阪府内、能勢町内で生息場所が局限される。
現在、大阪府内では能勢町以外で安定した生息場所はほとんどない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
　河川上流域の石礫の多い渓流。底生性で、昼間は礫間などに潜むことが多い。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
　河川改修に伴う河床構造の劣化や餌となる水生昆虫などの減少、河川水温の上昇</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
　産地が小規模で、少数の捕獲でも個体群に大きな影響を与えるため、淡水魚マニア等による採集を未然に防ぐため生息場所の情報公開を控えることが必要。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（魚類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
イトモロコ
Squalidus gracilis gracilis</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

写真は能勢町外の個体
写真提供；（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所</td><td>評価理由
府内の生息情報は比較的広範囲であるが、いずれの産地も個体数は多くなく、府域全体で減少が懸念されており、能勢町の生息状況も同様と推定される。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
河川中・下流部のよどみや流れの緩やかな瀬の岸際の砂底や砂礫底を好み、能勢町内では猪名川水系に多い。猪名川水系の生息記録が多い。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
河川改修に伴う河床や岸際帯の構造の単調化、水質汚濁などの要因により減少していると考えられる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（魚類）

種名（和名・学名） ムギツク *Pungtungia herzi*	評価ランク B ランク
形態の特徴 写真は能勢町外の個体 写真提供；（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所	評価理由 大阪府内では主に淀川以北の河川で分布するが、いずれの生息地でも個体群や生息域は縮小していると推定されている。能勢町も同様の状況と考える。
分布情報／生息環境 比較的水質の良い河川の中下流域や水路に生息する。淵や淀みに多く，岩盤・コンクリートブロックや沈水植物帯の隙間にひそんでいる．岩盤等の表面にいる水生昆虫を石をつつきながら食べる．能勢町では猪名川水系での記録が多い。能勢町に隣接する武庫川水系の上流域にも生息するため、町内同水系にも生息する可能性がある。	
現在の生息状況／減少の要因 河川改修による河川構造の単純化などが減少要因。比較的大きな岩や岩盤の消失により住処を失う。	
保全上の留意点／特記事項 托卵習性をもつことが知られており、能勢町における従来の托卵宿主としてはドンコやギギが考えられる。本種の保全にはこれらの魚種の生息環境の保全も併せて配慮することが必要。	

能勢町の大切にしたい生きもの（魚類）

種名（和名・学名） ドジョウ *Misgurnus anguillicaudtus*	評価ランク B ランク
形態の特徴 写真は能勢町外の個体 写真提供；（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所	評価理由 本種には日本在来の B-１系統と中国大陸由来の B-2 系統が存在し、大阪府内に両者が混在することが明らかになっている。能勢町は比較的 B-1 系統が多い地域であるが、一部河川で B-2 系統が確認されており、在来のドジョウの減少が危惧される。

分布情報／生息環境

河川中下流や水路、池に生息するが、水田周辺に特に多い。能勢町内では、猪名川水系を中心に近年も生息情報は多いものの、個体数の減少や分布域の縮小が懸念される。

現在の生息状況／減少の要因

本種の生息環境としての水田及び周辺水域、ため池などの減少・環境悪化、外来種（カラドジョウ *Paramisgurnus dabryanus*）や中国大陸由来の別系統の侵入・交雑など

保全上の留意点／特記事項

本種の保全には、水田～農業用水路～ため池といった水田周辺の水系ネットワークが必要である。また遺伝子汚染を防止するため、能勢町在来個体群の生息情報の収集や外来個体群の駆除などの対策が求められる。

能勢町の大切にしたい生きもの（魚類）

種名（和名・学名） アカザ *Liobagrus reini*	評価ランク B ランク
形態の特徴 写真は能勢町外の個体 写真提供；（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所	評価理由 本種の生息が渓流域に限定され、府内では個体数が少ない。 府内他河川では激減している事例もあり、能勢町個体群も危険度が高い。
分布情報／生息環境 夜行性で、浮石の多い水質の良好な河川上～中流に生息。昼間は河床の石の隙間に隠れている。能勢町内では猪名川水系に生息しているが、加古川水系・武庫川水系では、兵庫県側で生息が知られていることから能勢町内の当該水系にも生息する可能性がある。	
現在の生息状況／減少の要因 河川改修に伴う河床構造の劣化、水質悪化、餌生物の水生昆虫等の減少	
保全上の留意点／特記事項	

能勢町の大切にしたい生きもの（魚類）

種名（和名・学名） ミナミメダカ *Oryzias latipes*	評価ランク B ランク
形態の特徴 写真は能勢町外の個体 写真提供；（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所	評価理由 大阪府内では、生息に適した環境の減少や、国内外来種（キタノメダカ）や鑑賞用品種による遺伝子汚染、特定外来生物カダヤシとの競合などにより急激に在来系統の個体数が減少していると推定されており、能勢町も状況は同様と考える。
分布情報／生息環境 能勢町では猪名川水系で生息記録がある。	
現在の生息状況／減少の要因 ため池や河川中下流の流れが緩やかな場所、水田や水路等で生息するが、能勢町内での生息記録の情報は多くない。水田～農業水路～ため池といった水系ネットワークに順応した生活史をもつため、水田環境の変化が本種の減少要因となっている。 また、生息環境が重複する特定外来生物のカダヤシ（*Gambusia affinis*）との競合による減少も懸念される。	
保全上の留意点／特記事項 キタノメダカや鑑賞用改良品種との交雑個体と在来個体との外見上の判別は困難。安易な飼育・増殖および放流は控えることが必要。	

能勢町の大切にしたい生きもの（魚類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
タモロコ
Gnathopogon elongatus elongatus</td><td>評価ランク
C ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

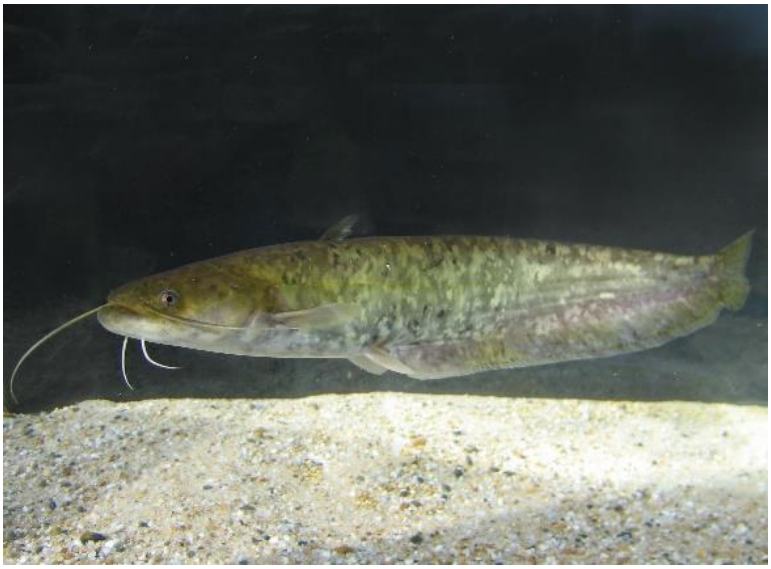
写真は能勢町外の個体
写真提供；（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所</td><td>評価理由
大阪府内の生息記録は多いが、近年は個体数の減少が懸念されており、能勢町内も同様の状況と推定される。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
河川中下流域・池・水路など流れの緩やかな場所に生息。能勢町内では猪名川水系で記録がある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
河川や水路の改修、ため池の消失、外来魚による食害</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
　本種の卵は水草や植物の根に産み付けられるため、それらの環境が護岸工事等で失われると再生産ができなくなる。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（魚類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ギギ
Tachysurus nudiceps</td><td>評価ランク
C ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

写真は能勢町外の個体
写真提供；（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所</td><td>評価理由
大阪府内の生息記録は多いが、河川改修や水質汚濁により個体数の減少や分布域の縮小が懸念されており、能勢町においても状況は同様と推定される。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
河川中下流域で生息。猪名川水系で記録がある。夜行性で昼間は石の下や水草の陰に潜んでいる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
餌となる水生昆虫や小動物の減少。抽水植物群落等の減少</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項</td></tr>
</table>

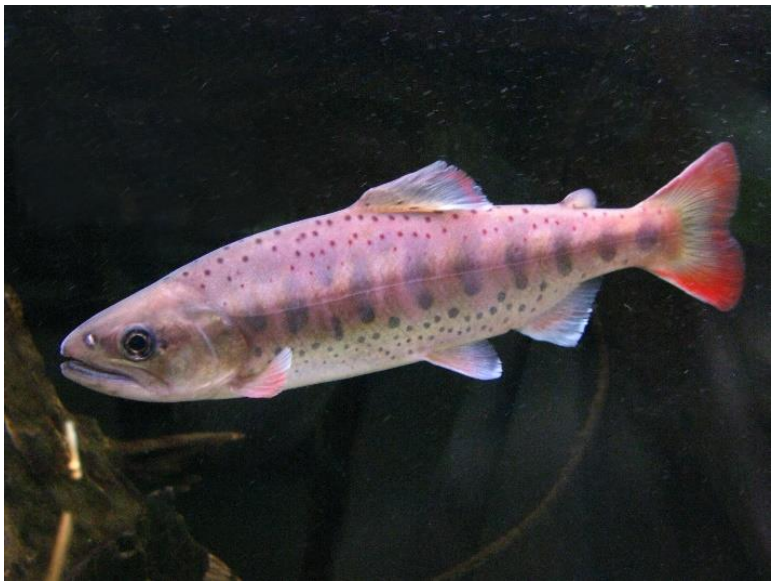
能勢町の大切にしたい生きもの（魚類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ナマズ
Silurus asotus</td><td>評価ランク
C ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
 
写真は能勢町外の個体
写真提供；（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所</td><td>評価理由
能勢町内の生息記録は比較的多いものの、大型の肉食魚である本種の個体数は本来的に多くない。氾濫原に順応した生活史をもつため、農業の近代化や水田の減少により個体数の減少が懸念される。府の RD で準絶滅危惧種とされており、町内での絶滅リスクも同程度と推定される。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
河川の中下流域や水路、池に生息する。昼間は水草の繁茂する所や岩の間などのものかげに潜んでいる。産卵期には農業水路から水田に侵入することも多い。猪名川水系で生息記録がある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
能勢町内の各所で散発的に生息記録があるが、遡上できない水田の増加や河川の護岸工事などにより産卵場所の喪失していることは減少の要因となっていると考えられる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
本種の保全には、水田～農業用水路～ため池といった水田周辺の水系ネットワークの再生が必要である。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（魚類）

種名（和名・学名） アユ *Plecoglossus altivelis altivelis*	評価ランク C ランク
形態の特徴 写真は能勢町外の個体 写真提供；（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所	評価理由 能勢町在来のアユは、ダムや堰堤等の構造物により海からの天然遡上が阻害されているため、ほぼ絶滅状態と推定されるが、一庫ダムと河川を回遊する個体群の存在が確認されている。 この個体群の由来は明らかになっていないが、アユが生息できる河川環境の重要性を鑑みて C ランクの評価とした。
分布情報／生息環境 猪名川水系で河川漁業協同組合による放流があり、広く分布する。	
現在の生息状況／減少の要因 ダム、堰堤等の河川構造物により海からの遡上は阻害されているが、成魚放流とダムによる陸封化により生息状況は安定している。カワウによる食害が懸念されている。	
保全上の留意点／特記事項 現在、能勢町漁業協同組合により、毎年大路次川・山辺川で放流が行われている。	

能勢町の大切にしたい生きもの（魚類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
アマゴ
Oncorhynchus masou ishikawae</td><td>評価ランク
情報不足</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
 
写真は能勢町外の個体
写真提供；（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所</td><td>評価理由
猪名川川水系の河川上流域で天然個体群が確認されているが、在来のものか放流由来かは不明。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
渓畔林などが豊かで、瀬淵など河床型に変化がある河川上流域</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
本種は Aa 型の河床型（１蛇行区間に複数の瀬淵が存在。瀬淵の移行は段差を伴う）の河川を好み、河畔林からの落下昆虫や水生昆虫等を餌とするため、生息には自然度が高い河川の維持が必要となる。猪名川水系上流の渓流で天然個体が生息している。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
能勢町内で定着しているのは、由来のわからない個体群であるため、移動や移植などの行為は控えることが必要。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（魚類）

種名（和名・学名） オオヨシノボリ Rhinogobius fluviatilis	評価ランク 情報不足
形態の特徴（あれば写真・スケッチも） 写真は能勢町外の個体 写真提供；（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所	評価理由 能勢町内で散発的な採集記録があるが、個体数は多くないと推定される。
分布情報／生息環境 河川の中上流部に生息。特に早瀬から淵頭のような流れの早い場所に多い。猪名川水系で記録がある。卵からふ化した仔魚は海に下る習性をもつが、ダム湖に陸封されることが知られている。	
現在の生息状況／減少の要因 不明	
保全上の留意点／特記事項 ヨシノボリ類は種判別が極めて困難。	

能勢町の大切にしたい生きもの（以下、レッドリスト）と昆虫類の目録は、大阪公立大学、大阪市立自然史博物館等による調査と所蔵標本、文献および地元有識者からの聞き取り情報等に基づいて作成した。その結果、1433 種の昆虫の記録があり、そのうち 85 種をレッドリスト種とした。

ベッコウトンボ、キバネツノトンボ、シルビアシジミ、オオウラギンヒョウモン、ウラナミジャノメの 5 種は過去の記録があるものの、近年の情報がなく、現地調査でも確認できなかったことから、能勢町からは絶滅したと判断した。シルビアシジミとウラナミジャノメは大阪府内の限られた地域で残っているが、その他は大阪府からも絶滅したと考えられている。

ハッチョウトンボ（A ランク）は、大阪府内でも広く記録があったが各地で絶滅し、近年の記録は能勢町のみである。アオハダトンボ、グンバイトンボ、ヒロオビミドリシジミ、キマダラルリツバメなどについても、能勢町以外の大阪府内の記録は少ない。A ランクのうち、コバンムシ、ギフチョウ、スジボソヤマキチョウ、クロシジミ、ゲンゴロウなどは、最近の記録がなく、すでに絶滅した可能性もある。

昆虫のレッドリスト種から、能勢町で重要と考えられる生息地の環境としては、湿地、水田周辺、里山林、草原、クリ林などが挙げられる。貧栄養の湿地は大阪府内には少なく、能勢町でも減少している。水田周辺には水生昆虫を中心として、多様な昆虫類が見られるが、棚田での放棄水田の増加や農薬の影響などによって減少が著しい種も多い。さらに、ウシガエルやオオクチバスなどの外来種が水生昆虫に悪影響を与えていると考えられる。里山林ではチョウ類の希少種が多いが、管理の低下による林間の鬱閉やシカの食害による下層植生の変化などが多様性を低下させることが指摘されている。能勢町のクリ林は山裾の斜面などを利用しており、下刈りによって疎林的な草原環境を創出し、民家周辺の畦畔の草地と合わせて、カヤコオロギ（A ランク）やウラギンヒョウモン（B ランク）などのような草原性の昆虫などの生息環境として適している。これらの環境を管理によって維持あるいは復元することが望ましいと考えられる。

（担当　平井　規央　大阪公立大学大学院 農学研究科
緑地環境科学専攻　環境動物昆虫学研究グループ）

能勢町の大切にしたい生きもの（昆虫）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
キバネツノトンボ
Libelloides ramburi</td><td>評価ランク
絶滅</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
体長約 23mm、前翅長約 28mm。前翅は基部を除いて透明。後翅は暗褐色にくもり、黄色の斑紋を持つ。体は黒色で毛深い。

撮影：松本　吏樹郎（博物館標本。能勢町産）</td><td>評価理由
長年確実な記録がなく、生息が期待できる環境も乏しい。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
能勢町では 1960 年に採集された標本が現存するが、その後の確認例はなく、現在ではほぼ絶滅状態と考えられる。あまり丈の高くない草地に生息する。近畿地方では溜池の土手などで発生することも多い。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
近年の記録はない。生息には丈の短い草地が維持されている必要があるが、現在町内には適当な生息環境がほとんどみられない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
生息が再確認された場合、生息地である草地を維持する必要がある。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（昆虫）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ヒメハルゼミ
Euterpnosia chibensis</td><td>評価ランク
Aランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
体長 21～28mm、翅端まで約 35mm。オスのほうが大型。体は褐色で、胸部に淡い緑色や黒色の斑紋を持つ。

撮影：松本　吏樹郎（博物館標本）</td><td>評価理由
大阪府内の分布は非常に限られる。生息地の環境はあまり好適でなく、絶滅が危惧される。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
本州～九州、屋久島、奄美大島などに分布する。一般的に沿岸部から低山地の常緑広葉樹林などの薄暗い林に生息する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
能勢町では垂水の新宮神社境内のみで発生が確認されているが、植生は比較的貧弱で本種の生息環境としては特異である。個体数も極めて少ない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
本来規模の大きな社叢林などで見られる。常緑広葉樹の減少は本種の消滅につながると考えられる。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（昆虫）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
イッシキガガンボモドキ
Bittacus issikii</td><td>評価ランク
C ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
体長約 18mm、前翅長約 20mm。体は細く、黄褐色。脚は非常に長く、先端は獲物の捕獲に適した形態となっている。

撮影：松本　吏樹郎（博物館標本）</td><td>評価理由
大阪府内で唯一生息が確認されている。幼虫は林床で暮らし、成虫も林内の低木の枝葉にとまっていることが多く、シカの食害により林内環境が変化すると影響を受けやすい。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
近畿～中国・四国地方に分布する。落葉広葉樹林のある山や、大きな河川の渓畔林に生息する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
三草山では比較的多く見られる。かつては広く分布していたと考えられるが、各地の生息地は飛び地状で、好適な生息環境が減少していると考えられる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
シカ食害による林内環境の変化を避ける対策が必要。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（昆虫）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
アオハダトンボ
Calopteryx virgo</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
体長約 55mm、後翅長約 40mm。ハグロトンボに似るが、オスの翅の青い光沢が強いことや、メスの翅の偽縁紋などで見分けられる。

撮影：平井　規央</td><td>評価理由
大阪府内では能勢町以外ではほとんど見られず、能勢町でも減少傾向の可能性がある。里山を流れる澄んだ川でみられる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
本州、九州に分布する。抽水植物や沈水植物などの水生植物が豊富な砂底の清流に生息する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
能勢町内の天王、山辺、宿野、柏原などで記録がある。河川の改変による生息環境の減少が影響していると考えられる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
コンクリート護岸や堰堤の整備など、河川の工事の際に配慮が必要である。水辺の植生が重要である。ウシガエルやオオクチバスなどの外来魚も脅威となり得る。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（昆虫）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ハッチョウトンボ
Nannophya pygmaea</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
体長約 20mm、前翅長約 15mm。日本で最も小さいトンボで、成熟したオスは濃い赤色、メスは褐色と黒の縞模様である。

撮影：平井　規央　（能勢町での撮影）</td><td>評価理由
大阪府内の広い範囲で見られたが、近年は能勢町の記録しかない。能勢町でも個体数が少なく、記録が途切れがちである。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
本州、四国、九州に分布する。貧栄養の湧水湿地や休耕田など、草丈の低い湿地に生息する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
地黄湿地や剣尾山などで記録がある。土地利用や植生の変化、管理方法の変化などによる湿地の消失と乾燥化が影響していると考えられる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
サギソウやモウセンゴケの生えるような湿地環境の復元が必要。ウシガエルなどの外来種も脅威となり得る。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（昆虫）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
モートンイトトンボ
Mortonagrion selenion</td><td>評価ランク
C ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
体長約 30mm、後翅長約 15mm。小型のイトトンボの仲間で、成熟したオスは緑、黒、赤の配色、メスは緑色を基調としている。

撮影：平井　規央　（能勢町での撮影）</td><td>評価理由
大阪府内の広い範囲で見られたが、近年の記録は少なく南部では絶滅した可能性が高い。能勢町では比較的広範囲で見られるが、生息環境は脆弱である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
北海道南部、本州、四国、九州に分布する。貧栄養の湧水湿地や休耕田、水田周辺や水路など、草丈の低い湿地や浅い水域に生息する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
ハッチョウトンボと同じような湿地環境にも居るが、水田や休耕田周辺でも見られる。本種にとって良好な環境の減少が影響していると考えられる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
湧水湿地については、ハッチョウトンボと共通。休耕田は遷移が進みやすく、一時的な生息地である。農薬の使用は生息にとって脅威となる。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（昆虫）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
オオクワガタ
Dorcus hopei</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
オスでは体長 40～60mm、メスでは 30～40mm。大型のクワガタムシ類の一種で、雌雄とも全体が黒色である。

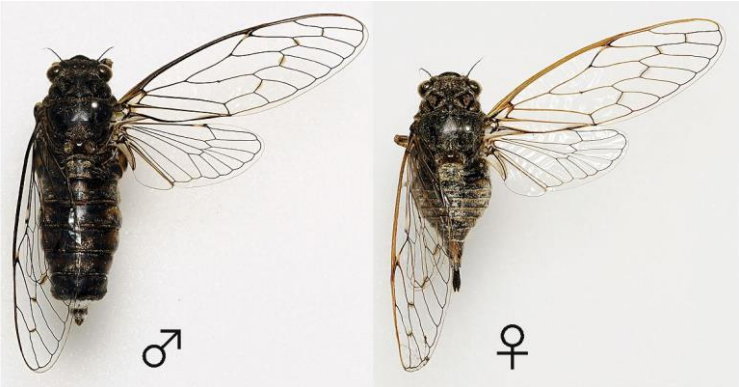
撮影：平井　規央（町外産地での撮影）</td><td>評価理由
大阪府内の北部で記録があり、能勢町は有名な生息地となっているが、近年は減少傾向の可能性がある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
北海道南部、本州、四国、九州に分布する。里山的な環境に多く、能勢町では主としてクヌギの薪炭林で見られる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
樹洞などで生活するため、個体数の把握が困難である。台場クヌギのような管理がなされた樹木で見られる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
薪炭林としての里山管理の継続が必要と考えられる。愛好家等による採集圧も脅威となる。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（昆虫）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
クロゲンゴロウ
Cybister brevis</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
体長 20～25mm。中型のゲンゴロウ類の一種である。体色は緑がかった黒色で、特に斑紋はない。

撮影：平井　規央　（町外産地での撮影）</td><td>評価理由
大阪府内の北部で記録があるが、近年は減少傾向である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
本州、四国、九州に分布する。湿地や休耕田、ため池、水田、水路など、比較的植生のある水域で見られる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
能勢町では各地で散見されるが、いずれも密度は低い。ゲンゴロウ類は全般に減少しており、本種も以前ほど見られなくなっている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
生息地の減少、農薬の使用、外来種のウシガエルやオオクチバスによる捕食などさまざまな要因に配慮する必要がある。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（昆虫）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ハルゼミ
Terpnosia vacua</td><td>評価ランク
C ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
体長 23～32 mm、翅端まで約 37 mm。体はほとんど黒褐色で、翅は透明。
 

撮影：松本　吏樹郎（博物館標本）</td><td>評価理由
大阪府内他地域に比べれば広く現存するが、かつてほどの鳴き声は聞かれず、個体数は顕著に減少したと考えられる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
本州、四国、九州に分布する。丘陵地から山地にかけてのマツ林で見られ、4 月下旬から 6 月末に成虫が出現する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
近年の調査では単独ないし数頭での鳴き声のみ確認されている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
松枯れなどによる生息環境の悪化が減少の要因と考えられる。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（昆虫）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ヒロオビミドリシジミ
Favonius cognatus</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
前翅長 18～22 mm。オスの翅表は金緑色の金属光沢がある。裏面は白っぽい灰白色となる。メスはオスとは異なり翅表は黒褐色の地色に汚白色の紋がはいる。

撮影：平井　規央（能勢町産）</td><td>評価理由
大阪府内には幼虫の食樹となるナラガシワは他の地域にもみられるが、能勢町三草山が本種の唯一の生息地となっている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
本州の西部のごく限られた分布をし、三草山がその東限となっている。平地から低山地でナラガシワのある雑木林に生息する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
大阪府緑地環境保全地域に指定されている三草山では、捕獲が禁止されており、いくぶん安定して確認できる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
2008 年の大阪府緑地環境保全地域に係る保全計画の変更により、採集者も極端に減少はしている。適切な樹木の管理が継続的に行われる必要がある。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（昆虫）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
キマダラルリツバメ
Spindasis takanonis</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
前翅長 12～18 mm。後翅に尾状突起が２本あるのが特徴。翅裏は黄白色で、中央に細い銀色の線が入る黒条斑が複数ある。斑紋は地域により変異がある。

撮影：平井　規央（能勢町産）</td><td>評価理由
大阪府内でも、北部に数か所記録されるが、どの地域も厳しい現状にある。現在確実に確認されるのは能勢町のみとなっているかもしれない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
本州の中でも局地的に分布する。サクラなどの樹木に巣をつくるハリブトシリアゲアリに育てられるため、神社や公園などが生息地になることもある。その生息地が国の天然記念物に指定されているものもある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
ハリブトシリアゲアリは能勢町内に広く生息しているが、本種が現在確認されている生息地は、以前はいくぶん広いエリアで確認されていたが、極めて局所的な場所に限られるようになっている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
開発や害虫防除のための農薬の使用などにより、発生する樹木の減少や生息地の減少が懸念される。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（昆虫）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
タガメ
Kirkaldyia deyrolli</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
体長 48～65mm で、日本最大級の水生昆虫である。オスよりもメスが大きい。前脚が強大な捕獲脚となり、獲物を捕らえるのに適している。

撮影：平井　規央（飼育個体）</td><td>評価理由
大阪府内で、現在でも確実に生息しているのは北部地域であるが、能勢町でもさまざまな要因で極端に少なくなっている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
国内では、北海道から琉球列島まで広く分布するが、局所的で個体数も多くない。池沼や流れの緩い水路などに生息する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
池沼の減少や水質の汚染、水銀灯への誘因などにより減少した。外灯の LED 化や農薬に関しても現状は改善されてきたが、個体数の顕著な増加にはいたっていない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
能勢町には、非常に多くの大小のため池が存在するが、水質汚染物質の流入の防止など、さまざまな対策を講じる必要がある。2020 年に特定第二種国内希少野生動植物種に指定され、販売・頒布目的の採集が規制されている。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（昆虫）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ウマノオバチ
Euurobracon yokahamae</td><td>評価ランク
C ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
体長 15～25mm。メスの産卵管は体長の何倍にもなるほど極めて長い大型のコマユバチ。翅は半透明の黄褐色で、黒紋がある。

撮影：天満　和久　2018.4.28　（能勢町産）</td><td>評価理由
大阪府内では主に北部に生息し、大阪府レッドリスト 2014 では今回の B に相当する絶滅危惧Ⅱ類であるが、能勢町においては安定して生息する環境が現時点では整っている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
本州、四国、九州と広く分布しているが、各都道府県の多くで減少の報告がある。分布は局所的であり、里山環境の悪化による影響が危惧されている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
能勢町においては、里山環境が広く存在し、特にクリ林でよく見かけられる。寄主であるミヤマカミキリも十分に生息しており、本種の生息環境としては良い条件が整っている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
現状のような低投入持続型の管理が続けられ、現状のままクリ林が維持管理される必要がある。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（昆虫）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
カヤコオロギ
Euscyrtus japonicus</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
体長 8～10 mm、日本のマツムシ科で最小。翅は短く前翅長約 2.7 mm。発音器はない。産卵管は長く、体長とほぼ同じくらいの長さである。複眼から後方に向かって白帯が伸びる。

撮影：藤原　一旭　2022 年 8 月 23 日　（能勢町産）</td><td>評価理由
大阪府内の生息地は限られ、能勢町ではチガヤなどのイネ科植物が鹿に食害される可能性がある。さまざまな条件（周辺から被覆されることのない、背丈が大きくならないなど）がクリアした場所にのみ生息する。(能勢内でも、能勢の他の地域と比較しても生息地の共通点が不明)</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
本州、四国、九州に分布する。主にチガヤなどのイネ科植物の日当たりのよい草原に依存する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
能勢町では、生息している場所には多く確認できるが、ある特定の条件がクリアされている草地が少ないため、局所的にしか生息できない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
能勢町内での生息地を解明するとともに、移動力も乏しく、適応力も低いと考えられるため、ある特定の条件をクリアした現在の生息地をこのまま維持・保全する必要がある。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（昆虫）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
カヤキリ
Pseudorhynchus japonicus</td><td>評価ランク
C ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
体長 63～67 mm、前翅長約 45 mm。大型のキリギリス類で、全身は緑色または稀に褐色。頭部から前翅の付け根あたりまで白帯がある。口器が発達する。

撮影：平井　規央（町外産地での撮影）</td><td>評価理由
今となっては大阪府内での分布はかなり限られ、イネ科植物が鹿に食害される可能性があり、絶滅が危惧される。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
本州、四国、九州の平地から低山地のススキなどの高茎草原に生息する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
生息には自然度の高いススキなどの大型のイネ科植物か、高茎草原が必要となるが、能勢町でも鹿の影響でほとんど無く、柵で囲まれたクリ林のような環境でしか確認できていない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
現在、生息が確認されている場所を維持管理する必要がある。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（昆虫）

種名（和名・学名） ノトメクラチビゴミムシ *Trechiama notoi*	評価ランク C ランク
形態の特徴 体長 5.6～6.6mm。複眼は痕跡のみ。特にオスでは体の後半部が著しく大きくなるのは、巨大な交尾器を有するためである。	評価理由 能勢町がタイプローカリティーとなっている洞窟性の甲虫である。
分布情報／生息環境 本州からのみ記録があり、周辺では兵庫県で見つかっている。本来は地下浅層にすむらしいが、石灰洞など自然の洞窟や鉱山の廃坑からも見つかっている。	
現在の生息状況／減少の要因 能勢町山田のマンガン廃坑跡やはらがたわトンネル付近からも見つかっているが、洞穴性の昆虫であるため生息環境が限られる。	
保全上の留意点／特記事項 大阪府レッドリスト 2014 でも生態系ホットスポットの C ランクとなっている生息環境で、採集された廃坑跡はまだ現存している。本種を含む洞穴性の生きものを保護する観点からも現状で保存される必要がある。	

能勢町のクモ類についての情報は、ほとんどないというに等しかった。そこで、2021 年度は文献の探索が行われ、新聞記事を含む 7 編の文献に基づいて、能勢町内で現在までに 9 種が記録されていることが確認された。同時に、個人の未発表のデータの提供を受けることができ、それによって 8 種が追加された。

2022 年度は、3 回（8 月 25 日、9 月 9 日、11 月 7 日）の現地調査が行われた。また、8 月 27 日に実施されたバッタの定点調査で副産物として得られたクモ類の標本も活用することができた。結果、過去に記録されていた 17 種を含めて、合計 21 科 88 種が確認された。

この内、注目すべき種として、コマツエンマグモ、ヨリメグモ、ヨツボシショウジョウグモ、ゲホウグモの 4 種を選定した。いずれの種についても、過去から現在にかけての十分なデータがないため、生息状況の推移について評価することはむずかしいが、大阪府内及び近隣の府県における採集記録を参考にして、今後注意すべき種と見なした。

今回確認できた 88 種という数字は、市町村レベルの種数としては明らかに少なく、能勢町のクモ相の全容を知るには不十分な結果であると言わざるを得ない。現地調査で得られた標本の中には、未成熟であるために種の同定ができなかったものが少なくなかった。これは夏から秋にかけての調査しか実施できていないことによるものである。今後、多くの種が成熟する春から初夏にかけて調査が実施され、今回のデータが補完されることが強く求められる。

文献調査に尽力くださった清水裕行氏、個人の未発表データを提供くださった西川喜朗氏、バッタの調査で得られたクモの標本を提供くださった上田昇平氏、中尾隆暉氏、西雅刀氏、道盛正樹氏に厚くお礼申し上げる。

（担当　加村 隆英　追手門学院大学名誉教授）

能勢町の大切にしたい生きもの（クモ類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
コマツエンマグモ
Segestria nipponica Kishida, 1913</td><td>評価ランク
情報不足</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
体長は、雌 6～7 mm、雄 5～6 mm。眼は 6 個。多くのクモ類とは異なり、第 3 脚が前方を向く。腹部は細長い。全体に褐色で、歩脚はやや明るい。歩脚には不明瞭な環斑がある。腹部背面に黄褐色の斑紋がある。
 </td><td>評価理由
本州、四国、九州から記録されており、ある程度広い分布を示すものの、発見される頻度は低い。大阪府内における過去の明瞭な記録は 2 か所のみであり、注目すべき種である。
大阪府のレッドリストには「情報不足」として掲載されており、ここでも同様に扱う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
日本固有種で、青森県から九州北部（長崎県）までの 25 の都府県で記録がある。
樹皮や岩場の隙間に管状の住居を造り、獲物の接近を感知するための糸を住居の入り口から放射状に張る。人工的な建造物や石垣などの隙間で見られることもある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
能勢町内では、2022 年 8 月 25 日の調査で、地黄湿地の近くで確認された。ここでは、道路沿いの木製の柵の隙間に住居を造っていた。
現時点では、個体数増減に関する明瞭なデータはない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
本種は樹皮の隙間に住居を造るので、特に大木の保全は重要である。同時に、人工的な建造物の隙間も利用するので、神社や寺院などの古い建造物を過度に改変しないことも本種の保全には有効であろう。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（クモ類）

種名（和名・学名）	評価ランク
ヨリメグモ *Conculus lyugadinus* Kishida, 1940	情報不足

形態の特徴

体長は、雌 2.5～3 mm、雄 2 mm 前後。8 個の眼のうち、前中眼がかなり小さい。後中眼は互いに接する。体色は全体に黒褐色。腹部は球形で、個体によっては、やや淡色の斑紋がある。

評価理由

分布域は広いものの、大阪府内における記録はあまり多くない（現時点で、明瞭な記録は 4 件）。林内の渓流にのみ生息する種であり、環境の改変に比較的敏感であると考えられるので、注意を払うべき種である。

なお、兵庫県のレッドリスト 2017 には「要注目」として挙げられている。

分布情報／生息環境

日本国内では、北海道から沖縄県の八重山諸島まで広く分布する。国外では、韓国と中国に分布する。

里山および山地の林内の渓流域に生息する。渓流の水面に出ている石や流木、水面上に張り出した岩などの間に水平円網を張る。また、網と水面が近い場合は、横糸を水面に下ろすため、複雑な形の網になる。

現在の生息状況／減少の要因

能勢町内では、1984 年 6 月 18 日に吉野の犬飼川の支流で確認されている。

現時点では、個体数増減に関する明瞭なデータはない。

保全上の留意点／特記事項

本種は林内の比較的細い渓流に生息する。このような環境は、林地の開発で容易に失われてしまう可能性が高い。保全にあたっては、この点に留意すべきである。

能勢町の大切にしたい生きもの（クモ類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ヨツボシショウジョウグモ
Hypsosinga pygmaea (Sundevall, 1831)</td><td>評価ランク
情報不足</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
体長は、雌 2.5～4 mm、雄 2.5～3 mm。体色は全体に黄褐色ないし褐色。腹部背面中央と側面は白く、腹部背面に 2 対の黒斑がある。
 </td><td>評価理由
本種の分布域はかなり広いものの、大阪府内の記録は、現時点で能勢町における 1 件のみである。近隣の京都府、滋賀県、兵庫県においても従来の記録は各 1 件にとどまっている。したがって、今後注意すべき種と見なした。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
全北区に広く分布する。日本国内においても、北海道、本州、四国、九州、八重山諸島から記録がある。
水田、草地、湿原などの草間に垂直円網を張る。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
能勢町内では、2022 年 8 月 27 日に倉垣の水田で確認されている。
現時点では、個体数増減に関する明瞭なデータはない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
本種の本来の生息場所は、湿原や河川敷の草原のような水が豊富にある環境なのであろう。そのため水田にも適応していると考えられる。本種の保全には、水田やその周辺の草地を含む里山の環境の維持が有効であろう。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（クモ類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ゲホウグモ
Poltys illepidus C. L. Koch, 1843</td><td>評価ランク
情報不足</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
体長は、雌 12～18 mm、雄 2～3 mm。腹部は前後に平たく上下に延びる独特の形で、褐色、黒色、白色の複雑な斑紋がある。腹部の形態と色彩には、個体による変異がある。歩脚を縮めて枝の上で静止すると木のこぶのように見える。
 </td><td>評価理由
分布域は広く、山間部だけでなく、平野部の樹林にも生息するが、発見される頻度は低い。大阪府内における過去の明瞭な記録は数件にとどまっており、今後注意を払うべき種と考えられる。
大阪府のレッドリストには「情報不足」として掲載されており、ここでも同様に扱う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
日本国内では、宮城県から沖縄県の八重山諸島まで広く分布する。国外では、タイからオーストラリアまでの地域で確認されている。
樹間に垂直円網を張る。山間部だけでなく、平野部でも発見される。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
能勢町内では、2022 年 8 月 25 日に宿野の野外活動センター跡地の近くで、幼体 1 個体が確認されている。
現時点では、個体数増減に関する明瞭なデータはない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
本種の生息には、造網足場としての樹木が必要であり、中型の種であるので、ある程度豊富な餌資源も必要であろう。保全のためには、それらを満たす環境を保持しなければならない。</td></tr>
</table>

能勢町の淡水貝類目録は、主に標本記録を参照するとともに、現地調査を行って作成した。町内の淡水貝類相は文献記録が乏しく、特にイシガイ類は博物館の標本調査や数か所のため池を対象とした現地調査でも確認ができなかった。地元での聞き取りではいわゆる「ドブガイ」（ミナミタガイ、またはヌマガイなどの可能性）の生息記録があるのは間違いないと思われるが、種の特定ができないことから目録への収載は見送った。従って能勢町の大切にしたい生きもの（レッドリスト）の検討対象となっていない。イシガイ類は多くの魚類と種間関係を持つことから、水圏生態系の多様性の指標ともなる。これらの生息状況の把握が課題である。

能勢町では水田の広い範囲でマルタニシやマメタニシが、ため池ではオオタニシが生息している。いずれも府内で健全な生息地は明らかに減っており、能勢町は府内有数の生息地である。これらの個体群の存続は、水田と周辺環境の維持、すなわち稲作が将来的に継続するかどうかが大きく関わってくる。耕作水田の減少が避けられない状況下では、田んぼの湛水を継続する、ため池を埋め立てることはできるだけ避ける、などの方策は積極的に検討されるべきだろう。これらの環境は他の水生生物にとっても重要なすみかとなる。

能勢町の特徴的な淡水貝類としてマメシジミ属が挙げられる（大阪府レッドリストではマメシジミ *Pisidium japonicum* としているが、本属は分類学的な再検討が必要とされており、本リストではマメシジミ属とした）。剣尾山の湧水地に生息し、一時的に水が涸れる場合でも湿泥中で休眠状態で過ごしているとみられる。府内で継続的に個体群が確認されているのはここだけであり、隣接府県を含めても希少な産地である。生息地の水脈が改変されないよう、周辺を含めた地形の保全に十分な配慮が必要である。

マシジミはかつて府内でも広く生息する種だったが、中国大陸の系統（タイワンシジミ）が移入し、個体群が入れ替わっていると推定される例が頻発している。今回の調査では能勢町内でタイワンシジミの移入は確認されなかったが、引き続き警戒が必要である。

その他、現地調査ではため池でクルマヒラマキとヒラマキミズマイマイが確認された。これらは環境省レッドリストではそれぞれ絶滅危惧 II 類、情報不足としてランクされているが、町内のみならず、府内全体でも生息状況が把握できていない。今後の調査が必要である。

（担当　石田　惣　大阪市立自然史博物館　動物研究室）

能勢町の大切にしたい生きもの（淡水貝類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
マメシジミ属
Pisidium sp.</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
能勢町の個体は白色～灰褐色で、殻表に成長輪が刻まれる。

撮影：石田　惣（能勢町産）</td><td>評価理由
湧水地という特殊な環境に加え、生息地が局限されている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
剣尾山の湧水地、及び周囲の湿泥中に生息する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
文献情報などから判断して、現在確認できている生息地の範囲は以前から大きく変わっていないと考えられる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
生息地の水脈が改変されないよう、周辺を含めた地形の保全に十分な配慮が必要である。湧水地の水位や生息状況等を定期的にモニタリングすることが望ましい。府内で継続的に個体群が確認されているのはここだけであり、隣接府県を含めても希少な産地である。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（淡水貝類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
マメタニシ
Parafossarulus manchouricus japonicus</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
殻長 15mm までの塔型の巻き貝。数本の螺肋をめぐらす。

撮影 : 石田　惣（博物館標本。能勢町産）</td><td>評価理由
水田や用水路を棲み場所としており、放棄水田の増加の影響を受ける。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
水田・水路等の底質上に生息する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
町内の生息範囲は正確に把握できていない。増減の傾向は不明だが、放棄水田の増加は個体群に対して負の要因となる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
耕作水田の減少が避けられない状況下では、田んぼの湛水を継続するなどの方策は積極的に検討されるべきである。府内では 1990 年代まで淀川本流でも確認されていたが、現在では見られなくなっている。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（淡水貝類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
マルタニシ
Cipangopaludina chinensis laeta</td><td>評価ランク
C ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
　螺層が強く膨らみ、全体に球形となる。体層に点刻列がある。

撮影：石田　惣（博物館標本。能勢町産）</td><td>評価理由
　水田や用水路を棲み場所としており、放棄水田の増加の影響を受ける。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
　水田・水路等の底質上に生息する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
　町内平野部の広い範囲に生息する。増減の傾向は不明だが、放棄水田の増加は個体群に対して負の要因となる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
　耕作水田の減少が避けられない状況下では、田んぼの湛水を継続するなどの方策は積極的に検討されるべきである。府内で本種の健全産地は明らかに減っており、能勢町は府内有数の生息地である。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（淡水貝類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
オオタニシ
Cipangopaludina japonica</td><td>評価ランク
C ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
殻長 5cm に達する大型のタニシ類で、周縁は角張り、全体に塔型となる。

撮影：石田　惣 2022 年 10 月 24 日（能勢町産）</td><td>評価理由
主にため池を棲み場所としており、ため池の減少は直接的に影響を受ける。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
ため池の他、水田でも見られることがある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
町内の複数のため池に生息する。増減の傾向は不明だが、ため池の減少は個体群に対して負の要因となる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
ため池を埋め立てることはできるだけ避けるなどの方策は積極的に検討されるべきである。府内で本種の健全産地は明らかに減っており、能勢町は府内有数の生息地である。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（淡水貝類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
マシジミ
Corbicula leana</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
　殻長 20mm 程度の二枚貝。黒い殻皮を持ち、明らかな輪肋がある。

撮影：石田　惣（博物館標本。豊能町産）</td><td>評価理由
　中国大陸から移入した系統（タイワンシジミ）との入れ替わりが疑われる事例が国内・府内で頻発しており、警戒が必要。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
　水田などの水路。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
　町内の複数の水路に生息する。増減の傾向は不明。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
　能勢町内でタイワンシジミの移入は確認されていないが、引き続き警戒が必要である。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの　**総説＜陸産貝類＞**

能勢町の陸産貝類目録は、文献及び標本記録を参照して作成した。文献は1938 から 1940 年に出版された大阪府内の各種貝類目録、大阪府(2000)による大阪府野生生物目録、及び松村(2001)がまとめた大阪府陸産貝類誌に拠った。大阪府野生生物目録では「豊能」で生息とされるものを記録と見なしたが、能勢町内での生息が疑わしいものはその旨の付記をしている。その他の文献記録では能勢町または妙見山を産地とするものを目録に含めた。

今回の能勢町の大切にしたい生きもの（レッドリスト）策定にあたっては、陸産貝類の生息状況について町内を網羅するような現地調査は十分にできていない。府レッドリストでランク付けされている種、またはランク外であっても府内では希少と見なされる種について、町内での生息記録をそれぞれ評価し、環境省レッドリストにおける評価も加味してランク付けを行った。

オオギセル、シリオレトノサマギセル、ヤマタカマイマイは B ランクとした。この 3 種はいずれも分解の進んだ落ち葉の堆積が多い森林環境を好む。オオギセルは府内では能勢町の他に和泉山脈から金剛山地、シリオレトノサマギセルは箕面公園、島本町など北摂山地で記録があり、府レッドリストで絶滅危惧 I 類となっている。ヤマタカマイマイは北陸・近畿北部・中国地方に広く分布する。府内では能勢町がおそらく唯一の産地であり、本種の分布域の辺縁にあたると考えられる。

その他、府レッドリストでランク付けされている種のうち、ホソヒメギセルとコウベマイマイは近年の分布記録を考慮して C ランクとしたが、それ以外は記録が少ないため情報不足とした。

町内ではシカによる下層植生への食害が顕著であり、林内の乾燥下が進んでいる印象を受ける。また、疎林化が進行すると落葉の堆積量も減少することから、これらを餌や隠れ場所とする種への影響も大きいと推定される。この状況が陸産貝類相全体に深刻な影響を及ぼす可能性は高い。今回評価ができなかった種の状況把握も含めて、モニタリングが必要である。

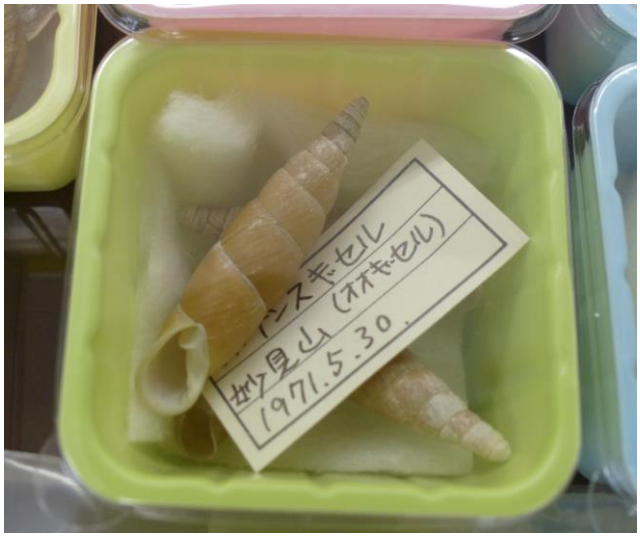
（担当　石田　惣　大阪市立自然史博物館　動物研究室）

能勢町の大切にしたい生きもの（陸産貝類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ヤマタカマイマイ
Satsuma papilliformis</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
高い螺塔を持ち、殻表はなめらかで、周縁に細い褐色の色帯を 1 本持つ。臍孔は閉じる。

撮影：石田　惣（博物館標本。能勢町産）</td><td>評価理由
シカによる下層植生の食害の影響を大きく受けると予想される。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
能勢町では天王、上山辺、長谷など北西部の森林帯から記録されている。森林の地上部に生息する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
現地調査では剣尾山の山腹で死殻を確認したが、町内全域での現在の生息状況は把握できていない。シカによる下層植生の食害に伴う林内の乾燥化は、本種に大きく影響すると懸念される。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
シカの食害を防ぐ対策が必要である。本種は北陸・近畿北部・中国地方に広く分布し、能勢町は本種の分布域の辺縁にあたると考えられる。府内ではおそらく能勢町が唯一の産地である。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（陸産貝類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
オオギセル
Megalophaedusa martensi</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
黒褐色から黄褐色で、10～11 層の螺層を持ち、殻長 40mm に達する大型種。
 

前田 満氏の標本（能勢町産）</td><td>評価理由
シカによる下層植生の食害の影響を大きく受けると予想される。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
能勢町では野間中などから記録されている。森林の地上部に生息する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
1990 年代までの記録を確認しているが、町内での現在の生息状況は不明である。シカによる下層植生の食害に伴う林内の乾燥化は、本種に大きく影響すると懸念される。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
シカの食害を防ぐ対策が必要である。本種は府内では標高の高い山地に限られている。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（陸産貝類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
シリオレトノサマギセル
Mundiphaedusa decapitata</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
　淡い黄色で、13 層の螺層を持ち、成長すると殻頂部分が脱落する。

撮影：石田　惣（博物館標本。能勢町産）</td><td>評価理由
　シカによる下層植生の食害の影響を大きく受けると予想される。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
　能勢町では野間中から記録されている。森林の地上部に生息する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
　1990 年代までの記録を確認しているが、町内での現在の生息状況は不明である。シカによる下層植生の食害に伴う林内の乾燥化は、本種に大きく影響すると懸念される。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
　シカの食害を防ぐ対策が必要である。本種は府内では北摂山地に限られている。</td></tr>
</table>

そもそも能勢町に生育している植物のリストが存在しないため、まずは植物のリストを作成するところからはじめた。能勢町の植物に関する記述がある 19 の文献を精査し、植生データベース（ひとはく植生データベース）と標本データベース（サイエンスミュージアムネットおよび大阪市立自然史博物館の非公開データ）から能勢町に分布する植物のデータを収集した。さらに提供してもらえた個人の調査記録を合わせて、能勢町で記録がある維管束植物 158 科 1210 種のリストを作成した。大阪府レッドリスト 2014 に掲載されている植物のうち、能勢町で記録がある植物は原則、能勢町の大切にしたい生きもの（以下、レッドリスト）に掲載した。また、上記リストの植物の中からレッドリストに入れるべき植物を精査した。なお、維管束植物全体のリストについてはまだ精査が必要であるため、現時点では非公開とする。

能勢町の維管束植物に迫る最も大きな脅威はシカの過採食である。2022 年の調査では、普通種がなかなか見当たらず、シカの不嗜好性植物が繁茂しているという状況が能勢町内の各所で確認できた。シカの影響は草本や低木に対して特に深刻であり、ツリフネソウやアオキといった一般的には普通種とされる植物が能勢町レッドリストに掲載されたことは特筆すべきことである。また、大阪府内では能勢町のみに生育しているムラサキマユミの自生地を訪れた際には、確認できたムラサキマユミの株のほとんどにシカの食痕が見られた。個体数が少ない植物に対してシカの採食は特に大きな脅威となっている。一方で、能勢町では植物相のデータやシカの過採食の影響を評価できるデータが不足している。能勢の自然を長らく観察している前田滿氏のコメントによって、減少傾向にある植物の検討を付けることはできたが、評価としては十分ではない。今回のレッドリストはシカの影響は過小評価になっており、掲載されるべき植物の多くが漏れている可能性が高いことを書き残しておく。こういった状況は昆虫など他の生きものにも大きく影響すると考えられるため、能勢町の生物多様性保全を進める上で、詳細な調査を行ってシカの影響を評価していくとともに、シカの個体数管理やシカ柵による植生の保全を行う必要がある。

能勢町の維管束植物に迫る脅威は他にも様々ある。耕作放棄によって水田が維持されなくなり、また、圃場整備などによって、農地周りの草が刈られる畦畔の植物が減少している可能性が高い。放棄水田は一時的には湿生植物の生育地となることもあるが、管理されずに乾燥化が進むとこれらの湿生植物は消えていく。また、山が使われなくなったことで、草原的な明るい環境に生育する植物は軒並み減っていると思われる。能勢町の場合はクリ林の管理などが明るい環境を好む植物の生育を助けている可能性があるが、その詳細はまだよくわかっていない。能勢町の自然の特徴としては花崗岩地帯の染み出し水による湿

地が挙げられるが、こういった場所も乾燥が進み湿生植物が消えつつあると聞く。湿地の乾燥化の原因としては、山が使われないことで周囲の森が大きくなり、蒸散や遮断蒸発によって涵養・湧出される水の量が減ったためだろう。道路の拡幅工事やソーラーパネルの設置などの開発や園芸価値の高い植物の盗掘なども能勢町の生物多様性の脅威である。開発の象徴的な例として、能勢町から絶滅したとされるオキナグサがかつて生育していた場所は、現在はソーラーパネルが設置され、再生の可能性すら絶たれてしまったことが挙げられる。再生可能エネルギーの利用促進は重要であるが、ソーラーパネルの設置場所についてはどういった環境でどういった生きものが生息・生育しているのかを考慮することが望ましい。

以上のように能勢町の植物に迫る危機は非常に多岐に渡るが、特にシカの過採食の影響は最も大きい。いずれにしても、基本的な調査が足りておらず、これから人知れず消えていく植物も多いと思われる。10 年後に「え？あんなに普通にあった植物が見られない？？」といった状況にならないよう、調査と具体的な保全対策を進めていく必要に迫られている。

能勢町在住の前田滿氏には能勢町の維管束植物の現状から限られた時間の中で調査すべき地点の選定、レッドリストの素案へのコメントなど多方面に渡って様々な情報を提供いただいた。前田滿氏がいなければ今回のレッドリスト作成は不可能だっただろう。また、梅原徹氏と山住一郎氏には個人の調査記録を提供いただくとともにレッドリストの素案にコメントをいただいた。天満和久氏と南里典由氏 には個人の調査記録を提供いただいた。長谷川匡弘氏にはレッドリストの素案にコメントをいただいた。以上の方々に厚くお礼申し上げる。

（担当　横川　昌史　大阪市立自然史博物館 植物研究室）

能勢町の大切にしたい生きもの（維管束植物）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
アオキ
Aucuba japonica Thunb. var. japonica</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

撮影：丸山　健一郎（町外の産地での写真）</td><td>評価理由
シカの過採食による激減のため。普通種であるが 2022 年の調査ではほとんど確認することができず、シカの影響が大きいと思われる。予想される減少率を考慮して B ランクとした。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
林床</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
普通種であるが 2022 年の調査ではほとんど見かけることがなかった。シカの過採食により、能勢町内の多くの場所で見られなくなっていると思われる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
シカの個体数管理やシカ柵の設置など、シカの過採食に対応した保全策が必要だと思われる。普通種のアオキがほとんど見られなくなり、レッドリストに掲載されるというのはシカの影響の甚大さを象徴するものである。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（維管束植物）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ツリフネソウ
Impatiens textorii Miq.</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

撮影：丸山　健一郎（町外の産地での写真）</td><td>評価理由
シカの過採食による激減のため。普通種であるが 2022 年の調査ではほとんど確認することができず、シカの影響が大きいと思われる。予想される減少率を考慮して B ランクとした。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
湿った林縁など</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
普通種であるが 2022 年の調査ではほとんど見かけることがなかった。シカの過採食により、能勢町内の多くの場所で見られなくなっていると思われる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
シカの個体数管理やシカ柵の設置など、シカの過採食に対応した保全策が必要だと思われる。普通種のツリフネソウがほとんど見られなくなり、レッドリストに掲載されるというのはシカの影響の甚大さを象徴するものである。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（維管束植物）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ムラサキマユミ
Euonymus lanceolatus Yatabe</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

撮影：丸山健一郎 2022 年 11 月 21 日（能勢町産）</td><td>評価理由
分布が極めて限られている上にシカの採食の影響が懸念されるため A ランクとした。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
林床・林縁</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
大阪府での標本記録は能勢町天王のみに限られる。2022 年の調査では生育を確認できたが、個体数は極めて少なく、多くの株にシカの採食跡があった。シカの採食による絶滅が懸念される。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
シカの個体数管理やシカ柵の設置など、シカの過採食を抑える保全策が必要だと思われる。特に現状確認できている生育地は風前の灯火とも言えるため、応急処置としてムラサキマユミを囲うシカ柵の設置を早急に行うべきである。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（維管束植物）

種名（和名・学名） オキナグサ *Pulsatilla cernua* (Thunb.) Berchtold et J.Presl	評価ランク 絶滅
形態の特徴 日当たりのよい草地に生える多年草。4～5 月、茎の先に暗赤紫色の花を 1 個つける。花びらに見える部分は萼片。全体的に白い毛があり、果実は白い綿毛状。和名は果期の姿を老人の頭にたとえたもの。	評価理由 過去に記録がある生育地では長らく確認されておらず、その場所も現在はソーラーパネルが設置されているため絶滅とした。
分布情報／生息環境 乾いた草地	
現在の生息状況／減少の要因 森本弋氏が 1961 年に能勢町山辺で採集した標本が大阪市立自然史博物館に配架されている。前田満氏への聞き取りによると、かつて生育していた場所では長らく生育を確認できていないということであった。しかも、かつてオキナグサが生育していた場所は、現在は大規模なソーラーパネルが設置されており、再生も望み薄である。	
保全上の留意点／特記事項 里地周辺での大規模なソーラーパネルの設置は地域の生物多様性にとって大きな脅威になっている可能性が高い。設置する場所がどういう環境でどういう生きものが生息・生育しているのか、していたのかを評価した上での設置が望まれる。	

能勢町の大切にしたい生きもの（維管束植物）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
タマコウガイゼキショウ
Juncus diastrophanthus Buchenau var. togakushiensis (H.Lév.) Murata</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

撮影：丸山健一郎 2022 年 11 月 21 日（能勢町産）</td><td>評価理由
現状、天王の放棄水田でのみ記録がある。やや特殊な環境に生育している可能性があることも考慮して、B ランクとした。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
放棄水田わきの水路</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
桑島正二氏が 1938 年にヒロハノコモチゼキショウとして能勢町天王で採集した標本が大阪市立自然史博物館に配架されているが、これはタマコウガイゼキショウだと思われる。2022 年の調査では天王の山裾の放棄水田わきの湧水が入り込む水路やその周りで見つかり、実に 84 年ぶりの記録となった。おそらく生育個体数は多くはなく、詳細な調査が必要である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
山裾の圃場整備されていない水田や放棄水田は能勢町でも貴重な環境であるため詳細な現状調査と保全が望まれる。特に耕作をやめた水田をどのように維持していくのかの議論が必要だろう。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（維管束植物）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
カワラナデシコ
Dianthus superbus L. var. longicalycinus (Maxim.) F.N.Williams</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

撮影：丸山健一郎（町外の産地での写真）</td><td>評価理由
前田満氏からの情報では、かつては能勢町のあちこちであったようだが、最近はほとんど見ないとのこと。草原という生育環境やシカの影響などを考慮して B ランクとした。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
畦畔などの草原</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
必ずしも珍しい植物ではなく大阪府レッドリストには入っていないが、前田満氏への聞き取りによると能勢町では減少著しいようである。畦畔などの草原的な環境が減少していることを加え、シカの採食も減少の要因だと考えられる。2022 年の調査では能勢町長谷の農地畦畔で確認できた。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
カワラナデシコをはじめ、様々な植物が残っている畦畔などの草原は保全していく必要がある。このような環境に生きる植物は、管理放棄や圃場整備などが目下の危機であるが、シカの採食も脅威であるため総合的な対策が望まれる。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（維管束植物）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ユウスゲ
Hemerocallis citrina Baroni var. vespertina (H.Hara) M.Hotta</td><td>評価ランク
A ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

撮影：前田　満 1983 年 8 月 10 日（能勢町産）</td><td>評価理由
町内の 1 ヵ所でのみ確認されており、シカの影響などを考慮して A ランクとした。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
畦畔などの草原</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
元々記録が少ないうえにシカの影響が懸念される。2022 年の調査時点では生育地の畦畔は獣害対策のネットで囲われており、シカの採食は防がれている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
草刈りなどによって生育環境が維持されている植物で、特にユウスゲのように分布が限られたものは土地所有者や管理者に状況を知らせて日頃の管理でも気にしてもらえることが望ましい。農地の獣害対策ネットが結果としてユウスゲをシカの採食から守っているが、そのようなケースの効果などについては丁寧な評価が必要だろう。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（維管束植物）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
フシグロセンノウ
Silene miqueliana (Rohrb.) H.Ohashi et H.Nakai</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

撮影：前田　満 1976 年 7 月 30 日（能勢町産）</td><td>評価理由
　かつてはあちこちで見られたが近年は探しても見つからないようである。シカの過採食の影響と思われる。減少率などを考慮して B ランクとした。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
　林縁</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
　林縁の植物はシカの過採食の影響がかなり大きいと思われるが、その詳細は明らかではない。前田満氏へのヒアリングによると、フシグロセンノウはかつて能勢町の各地にあったが最近は見られないようだ。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
　フシグロセンノウのように花が目立つ植物は減少した場合には認識しやすいため、今回の掲載に至ったと考えられる。林縁の植物に対するシカの影響の評価は十分ではなく、フシグロセンノウは減少の代表として考えおく必要があり、同様の環境を好む植物について詳細な調査していく必要がある。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（維管束植物）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
サギソウ
Habenaria radiata (Thunb.) Spreng.</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

撮影：丸山　健一郎 2022 年 8 月 25 日（能勢町産）</td><td>評価理由
　能勢町で特別減少しているのかどうか、評価が難しかったため、大阪府レッドリスト 2014 の評価と同等の B ランクとした。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
　湿地</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
　湧水がある湿地などに生育するが、乾燥化による湧水湿地の消失などもあるようなので注意が必要である。また、園芸価値が高い植物なので、盗掘なども減少要因となっている可能性が高い。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
　山の利用がなくなって木が伐られなくなると、蒸散や遮断蒸発によって涵養・湧出する水が少なくなることが予想される。こういったことで湧水湿地が乾燥していく可能性があり、能勢町内に点在する湿地についてはモニタリングしていく必要がある。サギソウに限らず、同様の環境に生育する植物は注意しておく必要があるが、サギソウのような園芸価値が高い植物は、より注意が必要である。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（維管束植物）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ウリカワ　Sagittaria pygmaea Miq.</td><td>評価ランク
C ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

志賀隆・首藤光太郎・横川昌史・加藤将・稗田真也・倉園知広・山ノ内崇志（2018）水草ハンドブック．pp 64．新潟大学教育学部，新潟.
（http://wetlands.info/tools/guidebook/hydrophyte_handbook）
クリエイティブ・コモンズ・ライセンス（表示 4.0 国際）
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/</td><td>評価理由
2022 年の調査では水田や休耕田について複数箇所で調査したが、確認できた箇所は少なかった。近隣地域の状況なども考慮して C ランクとした。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
水田・休耕田</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
2022 年の調査では天王で確認されたが、出現箇所は少なかった。能勢は比較的、水田や休耕田などの生育環境は多いと思われるが数が少ない理由はまだよくわからない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
休耕田のような生育環境はウリカワだけでなく、多くの湿生植物の生育地として機能している可能性があるが、管理放棄が続くと乾燥化が進み、湿生植物は消えていくと思われる。そういった短期間での変化に留意しながら、管理方法を検討する必要がある。減少の理由を考える上で、休耕田などに生育する湿生植物の生育状況に加え、除草剤の使用状況など能勢の水田の管理方法を調査しておく必要もあるだろう。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（維管束植物）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ササユリ
Lilium japonicum Houtt.</td><td>評価ランク
C ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

能勢町生きものマップ 2020 より</td><td>評価理由
2022 年の調査ではあまり見つからず、近隣地域の状況なども考慮して C とした。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
草原・明るい林縁</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
能勢町では広く確認できるかと期待していたが、2022 年の調査では天王で確認できたものの、出現箇所は少なかった。ササユリが好む明るい環境が減っていることに加えて、シカの過採食の影響が懸念される。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
ササユリが好む草原や林縁などの明るい環境は、能勢町でも大きく減少していると思われ、そういった環境を好む植物は軒並み減少しているのではないかと思われる。草刈りなどの管理の継続や再開に加えて、シカの影響を小さくする対策が必要だろう。特に能勢町ではクリ園の草刈りがこういった明るい環境を好む植物を維持している可能性があるが、詳細はよくわからない。今後の調査が待たれる。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（維管束植物）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
オグラセンノウ
Silene kiusiana (Makino) H.Ohashi et H.Nakai</td><td>評価ランク
絶滅</td></tr>
<tr><td>形態の特徴

撮影：前田　満 1973 年 7 月（能勢町産）</td><td>評価理由
ずいぶん前に絶滅したと思われる。2022 年の調査でも見つからなかった。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
湿地</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
クサレダマと合わせて、山内の寒天干し場でのみ記録がある植物である。この場所はずいぶん前に開発されてしまい、オグラセンノウが生育していた湿地は現存しない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
能勢町で唯一、オグラセンノウやクサレダマが生育していた湿地ということで、どういった場所だったのか大変気になるが、開発されてしまった今となっては確認のしようがない。オグラセンノウについては、日本国内での分布上、能勢町のものは非常に重要である。まだ生き残っている、埋土種子などから再生するといったことが期待されるが、現状、発見の望みは薄い。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きものとコケ植物（蘚類、苔類、ツノゴケ類）の目録は、大阪市立自然史博物館所蔵標本記録、文献および現地調査に基づいて作成した。

その結果、蘚類 37 科 106 属 190 種、苔類 27 科 47 属 88 種、ツノゴケ類 1 科 2 属 2 種を確認した。今後の北摂地域・能勢町のコケ植物相解明の基礎資料となることが期待される。

なお，基本的に学名と和名は、蘚類は Iwatsuki (2004) に、苔類およびツノゴケ類は Yamada & Iwatsuki (2006) に従い、一部筆者の見解によった。大阪府 RDB に準拠するため、科の配列は岩月（2001）に従った。

堀（1962）によると大阪府下全域のコケ植物相ついて、蘚類 324 種、苔類 157 種を報告している。能勢町域は蘚類でその約 2／3、苔類では約 1／2 以上の種数が数えられることから、狭いながらコケ植物の生育環境としての多様性に富んでいる地域であると考えられる。

特筆すべきは、剣尾山や妙見山の山頂付近から、高山性の種類が記録されることである。蘚類では、コセイタカスギゴケ、ハリスギゴケ、ヨツバゴケ、ヒメカモジゴケ、ナミシッポゴケ、タカネシッポゴケ、リスゴケ、苔類ではキリシマゴケ、ツボミゴケモドキがあげられる。また、湿地や渓谷など水辺を好む蘚類として、オオミズゴケ、コアナミズゴケ、クマノゴケ、オオカサゴケ、苔類ではムラサキヒシャクゴケ、エゾミズゼニゴケなどが記録されている。減少や荒廃しつつある湿地・水辺環境の保全が、これらのコケ植物の生育に大切である。

（担当　道盛 正樹　認定非営利活動法人 大阪自然史センター）

能勢町の大切にしたい生きもの（コケ植物）

種名（和名・学名） キリシマゴケ *Herberta adunca*	評価ランク Aランク
形態の特徴 撮影：道盛　正樹（能勢町産）	評価理由 大阪府下では唯一の産地となっている
分布情報／生息環境 北半球の温帯に広く分布し、日本でも北海道から九州までの山地に広く分布。 湿度の高い場所の岩上や樹幹上にかなり大きな群落をつくる。	
現在の生息状況／減少の要因 剣尾山の急峻な岸壁に小群落が点在している。 大阪府下では唯一の産地。	
保全上の留意点／特記事項 群落単体での保全は極めて困難であり、周辺地域一体の保全が望まれる。	

能勢町の大切にしたい生きもの（コケ植物）

種名（和名・学名） オオミズゴケ *Sphagnum palustre*	評価ランク C ランク
形態の特徴 撮影:道盛　正樹(能勢町産)	評価理由 現時点では生育状況は小規模ながら比較的良好だが、湿原などの開発や、園芸用材料として乱獲され減少している。将来に向けて監視の必要がある。
分布情報／生息環境 温暖な地方から寒冷な地方まで世界に広く分布する。湿潤な森林の林床から湿原の周辺部を中心に中心部にまで生育がみられる。水没状態で生育することは好まず、水から離れて盛り上がった状態で良く繁茂する。	
現在の生息状況／減少の要因 山間部の小規模なミズゴケ群落が点在している。現時点では生育状況は比較的良好であり、急激に絶滅するとは考えられないが、湿原の乾燥化や開発、草木の成長に伴う生育環境の悪化による減少がみられる。	
保全上の留意点／特記事項 湿原の乾燥化や開発、草木の成長に伴う生育環境の悪化による減少がみられる。また、園芸用材料として乱獲され個体数が激減している。 将来に向けて、生育地のモニタリングの必要があると考えられる。	

能勢町の大切にしたい生きもの（コケ植物）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
クマノゴケ
Theriotia lorifolia</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
葉はやや幅広くひも状に長く伸び、乾くと内側に巻く。

撮影:道盛　正樹(能勢町産)</td><td>評価理由
森林伐採、河川改修、水質汚濁により減少傾向にある。環境の変化に敏感で絶滅が危惧される。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
本州、四国、九州、朝鮮半島、中国大陸、カシミールに分布。生育環境が山間の渓流沿いの陰地で、浅く水をかぶるような場所の岩上に限られている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
小渓流内の岩に水流に半ば浸って生育する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
水質とともに環境自体の保全が重要。
最新の学名では、Diphyscium lorifolium　イクビゴケ目 イクビゴケ科 とされている。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（コケ植物）

種名（和名・学名） オオカサゴケ *Rhodobryum giganteum*	評価ランク C ランク
形態の特徴 撮影:道盛　正樹(能勢町産)	評価理由 園芸目的による採取、環境悪化による減少が危惧される。
分布情報／生息環境 本州、四国、九州、琉球、朝鮮半島、中国大陸、熱帯アジア、ハワイ諸島、マダガスカルに分布。 林下の腐植土上などに生育し、茎頂に大型で濃緑色の葉が集まって、湿ると横に展開して傘を広げたようになる。	
現在の生息状況／減少の要因 林下の腐植土上などに散生しているが、草木の成長に伴う生育環境の悪化による減少がみられる。	
保全上の留意点／特記事項 園芸用材料として乱獲され個体数が激減している。 将来に向けて、生育地のモニタリングの必要があると考えられる。	

菌類（主に大型の子実体であるキノコを形成する種）の調査は、2021 年から 2022 年にかけての限られた日数で行った。文献や博物館の標本資料、町民の方の観察記録や Web 上の情報なども収集し、属まで特定できた種類として 240 種を確認した。このうち、15 種を能勢町の大切にしたい生きものとして選定した。

菌類はまだまだ未知なものが多く、日本で見られるキノコは、数千種類とも言われている。現時点での確認種数は、能勢町の自然環境から考えて、かなり少ないと言えるだろう。基礎データが不十分な状況では、確度の高い危惧種の選定とは言い難い面もあるが、大阪府や周辺自治体のレッドデータ選定種も参考にし、能勢町の生物多様性の保全上、注目しておくべき種を選定し、ランク付けを行った。

2022 年 4 月に発行された「北河内キノコ目録」には、1985 年から 2019 年に交野市・枚方市・四条畷市・大東市・寝屋川市・門真市・守口市で行われた菌類観察の記録がまとめられている。751 種ものキノコが挙げられており、長期にわたる観察記録の大切さが感じられる。

能勢町には多様な自然環境が残っており、多くの動植物が見られる地域であるので、菌類の多様性も高いと考えられる。今回は、集められた断片的な情報から選定を行ったが、今後、分布情報が多く集まるようになれば、選定種の内容やランクは入れ替わることもあるだろう。

キノコの多くは、落ち葉や朽ち木を分解したり、樹木など植物の根に取りつき栄養分を交換したりして、森林の物質循環には無くてはならない働きを担っている。キノコを保全するには、宿主となる樹木が育つ森林環境の保全が不可欠だ。温暖化やシカの食害、松枯れやナラ枯れなどで森林の植生が貧弱になれば、菌類の生育にも大きな影響があるだろう。

能勢町在住の前田滿氏、元古隆博氏、山本ゆきこ氏、ブナ守の会の箕浦麻里子氏には能勢町でのキノコ観察情報を提供いただいた。また、大阪市立自然史博物館の佐久間大輔氏には観察記録の提供や候補種選定にあたっての助言などいただいた。

（担当　丸山 健一郎　認定非営利活動法人　大阪自然史センター）

能勢町の大切にしたい生きもの（菌類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
マツタケ
Tricholoma matsutake</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
傘径が 8～20cm になるキノコで、茶褐色で繊維状の鱗片に覆われている。よく似た種が何種かある。日本では食用として珍重されるが、特有の香りは、外国では不快とされる事が多い。

撮影：大久保　雅弘（町外産地での撮影）</td><td>評価理由
生育に適した環境が減少し続けているため。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
秋にアカマツが優占する林の地上に生える。乾燥した腐植質の少ない土壌を好む。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
燃料革命以降、雑木林の利用が少なくなり、マツ林の土壌の富栄養化が進んだこと、またマツ材線虫病でのマツ枯れも影響し、生育に適した環境が減少し続けている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
マツタケの生育には、アカマツ林を手入れし、乾燥した腐植質の少ない土壌の環境を維持することが必要。
IUCN レッドリスト 2020 で危急（VU、過去および今後の、50 年間の間で、30%以上の減少がみられ、かつ、引き続きその減少傾向が見込まれる）とされる。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（菌類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
タマチョレイタケ
Polyporus tuberaster</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
タコウキン科キノコで、傘上面には淡褐色の鱗片が放射状に並ぶ。傘下面は管孔状で、柄の上部まで垂生して管孔があります。地下に巨大な菌核を形成する場合もある。

撮影：丸山　健一郎（能勢町産）</td><td>評価理由
妙見山のブナ林は面積も狭く、温暖化が進むと林自体の存続が危惧されるため。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
　春から秋に主に腐朽材上に発生。やや標高の高いところに多い。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
　能勢町では、妙見山のブナ林で夏から秋に発生を確認している。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
　発生地での倒木などは除去せず、これらの菌類の発生環境を維持することが必要。ブナ林自体の保全も大切である。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（菌類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ソライロタケ
Entoloma virescens</td><td>評価ランク
B ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
キノコでは珍しく鮮やかな青系の色をしている。中央が尖った円錐形の傘は、直径が 2～4cm 程度。触れて傷つくと黄色に変色します。

撮影：丸山　健一郎（能勢町産）</td><td>評価理由
全国的に見て発生地の限られる菌と考えられる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
夏～秋に針葉樹と広葉樹の混じった雑木林の腐葉土に散らばって発生。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
能勢町では 2 箇所の雑木林で夏に発生を確認。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
発生地の環境を維持すること。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（菌類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ツキヨタケ
Omphalotus japonicus</td><td>評価ランク
C ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
傘は半円形から腎臓形で長径 5～30cm 程度になる。幼菌は橙褐色から黄褐色で成長するとやや光沢のある紫褐色または黄褐色の傘になる。ひだは白く、柄との境に隆起したリング状の部分がある。柄は短く、断面に紫黒色のしみが出ることが多い。ひだの部分は、弱い発光性がある。

撮影：丸山　健一郎（能勢町産）</td><td>評価理由
妙見山のブナ林は面積も狭く、温暖化が進むと林自体の存続が危惧されるため。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
晩夏から秋に、主にブナの枯れ木に群生する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
能勢町では、妙見山のブナ林で夏から秋に発生を確認している。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
発生地での倒木などは除去せず、これらの菌類の発生環境を維持することが必要。ブナ林自体の保全も大切である。
地味な色で不快な臭いや味もないが、イルジンという毒成分を含む毒キノコ。群生するため、食中毒の事例がもっとも多い種。</td></tr>
</table>

能勢町の大切にしたい生きもの（菌類）

<table>
<tr><td>種名（和名・学名）
ウスキブナノミタケ
Mycena luteopallens</td><td>評価ランク
C ランク</td></tr>
<tr><td>形態の特徴
小さなキノコで全体が淡黄色～黄色で傘は径 5～7mm、柄は長さ 3～7cm くらい。

撮影：丸山　健一郎（能勢町産）</td><td>評価理由
妙見山のブナ林は面積も狭く、温暖化が進むと林自体の存続が危惧されるため。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分布情報／生息環境
秋に埋もれたブナの実から発生。</td></tr>
<tr><td colspan="2">現在の生息状況／減少の要因
能勢町では、妙見山のブナ林で 10 月に発生を確認している。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保全上の留意点／特記事項
発生地での発生環境を維持することが必要。ブナ林自体の保全が大切である。
日本産ウスキブナノミタケの分類については、顕微鏡的な形態等の再検討を要するとの意見もある。</td></tr>
</table>

５．　各分類群の選定種一覧リスト

能勢町の大切にしたい生きものに選定された全 376 種をリスト形式で示す。

1　哺乳類（11 種）……92 ページ
2　鳥類（27 種）……93 ページ
3　爬虫類（5 種）……94 ページ
4　両生類（7 種）……95 ページ
5　魚類（15 種）……96 ページ
6　昆虫（85 種）……97～100 ページ
7　クモ類（4 種）……101 ページ
8-9　淡水産・陸産貝類（17 種）……102 ページ
10　維管束植物（155 種）……103～108 ページ
11　コケ植物（35 種）……109～110 ページ
12　菌類（主にきのこ）（15 種）……111 ページ

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（哺乳類）

目名	科名	種名	学名	能勢町RL	環境省 RL	大阪府 RL
齧歯目	ネズミ科	ハタネズミ	*Microtus montebelli*	Aランク		絶滅危惧I類
齧歯目	ネズミ科	スミスネズミ	*Eothenomys smithii*	Aランク		絶滅危惧II類
翼手目	ヒナコウモリ科	ユビナガコウモリ	*Miniopterus fuliginosus*	Aランク		絶滅危惧I類
翼手目	ヒナコウモリ科	テングコウモリ	*Murina hilgendorfi*	Aランク		絶滅危惧I類
翼手目	ヒナコウモリ科	コテングコウモリ	*Murina ussuriensis*	Aランク		
齧歯目	リス科	ムササビ	*Petaurista leucogenys*	Bランク		準絶滅危惧
食肉目	イヌ科	アカギツネ	*Vulpes vulpes*	Bランク		絶滅危惧I類
食肉目	イタチ科	ニホンイタチ	*Mustela itatsi*	Bランク		絶滅危惧II類
齧歯目	ネズミ科	カヤネズミ	*Micromys minutus*	Cランク		準絶滅危惧
翼手目	キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ	*Rhinolophus cornutus*	Cランク		準絶滅危惧
翼手目	キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ	*Rhinolophus ferrumequinum*	Cランク		準絶滅危惧

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（鳥類）

目名	科名	種名	学名	能勢町RL	環境省RL	大阪府RL	外来・移入種
キジ目	キジ科	ウズラ	*Coturnix japonica*	Aランク	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧I類	
ペリカン目	サギ科	ミゾゴイ	*Gorsakius goisagi*	Aランク	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧II類	
チドリ目	チドリ科	イカルチドリ	*Charadrius placidus*	Aランク		絶滅危惧II類	
タカ目	タカ科	ハチクマ	*Pernis ptilorhynchus*	Aランク	準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧I類	
タカ目	タカ科	サシバ	*Butastur indicus*	Aランク	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧I類	
タカ目	タカ科	クマタカ	*Nisaetus nipalensis*	Aランク	絶滅危惧ⅠB類(EN)	絶滅危惧I類	近年の記録なし
ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン	*Halcyon coromanda*	Aランク			繁殖記録有り
ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	*Caprimulgus indicus*	Bランク	準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧II類	
チドリ目	タマシギ科	タマシギ	*Rostratula benghalensis*	Bランク	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧II類	
タカ目	タカ科	ツミ	*Accipiter gularis*	Bランク		絶滅危惧II類	
タカ目	タカ科	オオタカ	*Aciipiter gentilis*	Bランク	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧	
フクロウ目	フクロウ科	アオバズク	*Ninox scutulata*	Bランク		絶滅危惧II類	
チドリ目	チドリ科	ケリ	*Vanellus cinereus*	Cランク	情報不足(DD)	準絶滅危惧	
チドリ目	チドリ科	コチドリ	*Charadrius dubius*	Cランク		準絶滅危惧	
チドリ目	シギ科	タシギ	*Gallinago gallinago*	Cランク		準絶滅危惧	
チドリ目	シギ科	クサシギ	*Tringa ochropus*	Cランク		準絶滅危惧	
チドリ目	シギ科	タカブシギ	*Tringa glareola*	Cランク	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧II類	
タカ目	タカ科	ノスリ	*Buteo buteo*	Cランク		準絶滅危惧	
キツツキ目	キツツキ科	オオアカゲラ	*Dendrocopos leucotos*	Cランク		準絶滅危惧	
スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ	*Pericrocotus divaricatus*	Cランク	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧II類	
スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	*Alauda arvensis*	Cランク		準絶滅危惧	
スズメ目	ツバメ科	コシアカツバメ	*Hirundo daurica*	Cランク		準絶滅危惧	
スズメ目	カワガラス科	カワガラス	*Cinclus pallasii*	Cランク		準絶滅危惧	
スズメ目	ヒタキ科	コサメビタキ	*Muscicapa dauurica*	Cランク		絶滅危惧II類	
スズメ目	ホオジロ科	ホオアカ	*Emberiza fucata*	Cランク		準絶滅危惧	
スズメ目	ホオジロ科	カシラダカ	*Emberiza rustica*	Cランク		準絶滅危惧	
スズメ目	ホオジロ科	ミヤマホオジロ	*Emberiza elegans*	Cランク		準絶滅危惧	

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（爬虫類）

目名	科名	種名	学名	能勢町RL	環境省RL	大阪府RL
カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	*Mauremys japonica*	Cランク	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧
有鱗目	タカチホヘビ科	タカチホヘビ	*Achalinus spinalis*	Cランク		準絶滅危惧
有鱗目	ナミヘビ科	シロマダラ	*Lycodon orientalis*	Cランク		準絶滅危惧
有鱗目	ナミヘビ科	ヒバカリ	*Hebius vibakari*	Cランク		絶滅危惧II類
有鱗目	ナミヘビ科	ヤマカガシ	*Rhabdophis tigrinus*	Cランク		準絶滅危惧

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（両生類）

目名	科名	種名	学名	能勢町RL	環境省 RL	大阪府 RL
有尾目	サンショウウオ科	セトウチサンショウウオ	*Hynobius setouchi*	Aランク		絶滅危惧I類
無尾目	アカガエル科	ナゴヤダルマガエル	*Pelophylax porosus*	Aランク	絶滅危惧ⅠB類(EN)	絶滅危惧I類
有尾目	サンショウウオ科	ヒダサンショウウオ	*Hynobius kimurae*	Bランク	準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧II類
有尾目	オオサンショウウオ科	オオサンショウウオ	*Andrias japonicus*	Bランク	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧II類
無尾目	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	*Bufo japonicus*	Bランク		絶滅危惧II類
無尾目	アカガエル科	ヤマアカガエル	*Rana ornativentris*	Bランク		絶滅危惧II類
有尾目	イモリ科	アカハライモリ	*Cynops pyrrhogaster*	Cランク	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（魚類）

目名	科名	種名	学名	能勢町 RL	環境省 RL	大阪府 RL
ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	ヤツメウナギ南方種（スナヤツメ）	*Lethenteron sp.* S	Aランク	VU	CR+EN
コイ目	ドジョウ科	ナガレホトケドジョウ	*Lefua torrentis*	Aランク	EN	CR+EN
ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	*Anguilla japonica*	Aランク	EN	VU
スズキ目	カジカ科	カジカ大卵型	*Cottus pollux*	Aランク	NT	CR+EN
コイ目	コイ科	イトモロコ	*Squalidus gracilis gracilis*	Bランク		VU
コイ目	コイ科	ムギツク	*Pungtungia herzi*	Bランク		VU
コイ目	ドジョウ科	ドジョウ	*Misgurnus anguillicaudatus*	Bランク	NT	VU
ナマズ目	ナマズ科	アカザ	*Liobagrus reini*	Bランク	VU	VU
ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	*Oryzias latipes*	Bランク	VU	VU
コイ目	コイ科	タモロコ	*Gnathopogon elongatus elongatus*	Cランク		NT
ナマズ目	ナマズ科	ギギ	*Tachysurus nudiceps*	Cランク		NT
ナマズ目	ナマズ科	ナマズ	*Silurus asotus*	Cランク		NT
サケ目	アユ科	アユ	*Plecoglossus altivelis altivelis*	Cランク		NT
サケ目	サケ科	アマゴ	*Oncorhynchus masou ishikawae*	情報不足	NT	DD
スズキ目	ハゼ科	オオヨシノボリ	*Rhinogobius fluviatilis*	情報不足		DD

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（昆虫）

No.	目名	科名	種名	学名	能勢町 RL	環境省 RL	大阪府 RL
1	トンボ目	トンボ科	ベッコウトンボ	*Libellula angelina*	絶滅	IA	EX
2	アミメカゲロウ目	ツノトンボ科	キバネツノトンボ	*Libelloides ramburi*	絶滅		CR＋EN
3	チョウ目	シジミチョウ科	シルビアシジミ	*Zizina emelina emelina*	絶滅	IB	CR＋EN
4	チョウ目	タテハチョウ科	ウラナミジャノメ本土亜種	*Ypthima multistriata niphonica*	絶滅	VU	CR＋EN
5	チョウ目	タテハチョウ科	オオウラギンヒョウモン	*Fabriciana nerippe*	絶滅	IA	EX
6	トンボ目	イトトンボ科	オオイトトンボ	*Paracercion sieboldii*	Aランク		CR＋EN
7	トンボ目	エゾトンボ科	キイロヤマトンボ	*Macromia daimoji*	Aランク	NT	CR＋EN
8	トンボ目	カワトンボ科	アオハダトンボ	*Calopteryx japonica*	Aランク	NT	CR＋EN
9	トンボ目	サナエトンボ科	オグマサナエ	*Trigomphus ogumai*	Aランク	NT	VU
10	トンボ目	サナエトンボ科	ホンサナエ	*Gomphus postocularis*	Aランク		VU
11	トンボ目	トンボ科	ハッチョウトンボ	*Nannophya pygmaea*	Aランク		CR＋EN
12	トンボ目	モノサシトンボ科	グンバイトンボ	*Platycnemis foliacea sasakii*	Aランク	NT	CR＋EN
13	トンボ目	ヤンマ科	ルリボシヤンマ	*Aeschna juncea*	Aランク	A	VU
14	バッタ目	コオロギ科	カヤコオロギ	*Euscyrtus japonicus*	Aランク		CR＋EN
15	バッタ目	バッタ科	セグロバッタ	*Shirakiacris shirakii*	Aランク		VU
16	カメムシ目	コオイムシ科	タガメ	*Lethocerus deyrollei*	Aランク	VU	VU
17	カメムシ目	セミ科	ヒメハルゼミ	*Euterpnosia chibensis chibensis*	Aランク		VU
18	コウチュウ目	クワガタムシ科	オオクワガタ	*Dorcus hopei*	Aランク	VU	VU
19	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	ゲンゴロウ	*Cybister japonicus*	Aランク	VU	CR＋EN
20	コウチュウ目	ミズスマシ科	ミズスマシ	*Gyrinus japonicus*	Aランク	VU	VU
21	チョウ目	アゲハチョウ科	ギフチョウ	*Luehdorfia japonica*	Aランク	VU	CR＋EN
22	チョウ目	シジミチョウ科	アイノミドリシジミ	*Chrysozephyrus brillantinus*	Aランク		VU

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（昆虫）

No.	目名	科名	種名	学名	能勢町 RL	環境省 RL	大阪府 RL
23	チョウ目	シジミチョウ科	ウラキンシジミ	*Ussuriana stygiana*	Aランク		VU
24	チョウ目	シジミチョウ科	エゾミドリシジミ	*Favonius jezoensis*	Aランク		VU
25	チョウ目	シジミチョウ科	キマダラルリツバメ	*Spindasis takanonis*	Aランク	NT	CR＋EN
26	チョウ目	シジミチョウ科	ヒロオビミドリシジミ	*Favonius cognatus*	Aランク		CR＋EN
27	チョウ目	シロチョウ科	スジボソヤマキチョウ	*Gonepteryx aspasia*	Aランク		CR＋EN
28	チョウ目	シロチョウ科	ツマグロキチョウ	*Eurema laeta*	Aランク	EN	CR＋EN
29	チョウ目	セセリチョウ科	ヘリグロチャバネセセリ	*Thymelicus sylvaticus*	Aランク		CR＋EN
30	チョウ目	セセリチョウ科	ミヤマチャバネセセリ	*Pelopidas jansonis*	Aランク		CR＋EN
31	チョウ目	タテハチョウ科	クロヒカゲモドキ	*Lethe marginalis*	Aランク	EN	VU
32	トンボ目	イトトンボ科	モートンイトトンボ	*Mortonagrion selenion*	Bランク	NT	CR＋EN
33	トンボ目	エゾトンボ科	エゾトンボ	*Somatochlora viridiaenea*	Bランク		VU
34	トンボ目	トンボ科	キトンボ	*Sympetrum croceolum*	Bランク		VU
35	トンボ目	ヤンマ科	サラサヤンマ	*Oligoaeschna pryeri*	Bランク		NT
36	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	クロゲンゴロウ	*Cybister brevis*	Bランク	NT	NT
37	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	シマゲンゴロウ	*Hydaticus bowringii*	Bランク	NT	NT
38	コウチュウ目	コガネムシ科	クロカナブン	*Rhomborrhina polita*	Bランク		VU
39	コウチュウ目	カミキリムシ科	ルリボシカミキリ	*Rosalia (Rosalia) batesi*	Bランク		
40	チョウ目	シジミチョウ科	ウラジロミドリシジミ	*Favonius saphirinus*	Bランク		NT
41	チョウ目	シジミチョウ科	ウラナミアカシジミ	*Japonica saepestriata*	Bランク		VU
42	チョウ目	シロチョウ科	ヤマトスジグロシロチョウ	*Pieris nesis*	Bランク		
43	チョウ目	タテハチョウ科	ウラギンヒョウモン**(※)**	*Fabriciana adippe*	Bランク		VU
44	チョウ目	タテハチョウ科	オオウラギンスジヒョウモン	*Argyronome ruslana*	Bランク		NT

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（昆虫）

No.	目名	科名	種名	学名	能勢町 RL	環境省 RL	大阪府 RL
45	チョウ目	タテハチョウ科	オオムラサキ	*Sasakia charonda*	Bランク	NT	NT
46	チョウ目	タテハチョウ科	クモガタヒョウモン	*Nephargynnis anadyomene*	Bランク		VU
47	チョウ目	タテハチョウ科	スミナガシ	*Dichorragia nesimachus*	Bランク		NT
48	チョウ目	ヤママユガ科	オナガミズアオ	*Actias gnoma gnoma*	Bランク	NT	NT
49	トンボ目	アオイトトンボ科	オツネントンボ	*Sympecma paedisca*	Cランク		NT
50	トンボ目	エゾトンボ科	トラフトンボ	*Epitheca marginata*	Cランク		NT
51	トンボ目	サナエトンボ科	キイロサナエ	*Asiagomphus pryeri*	Cランク	NT	NT
52	トンボ目	サナエトンボ科	フタスジサナエ	*Trigomphus interruptus*	Cランク	NT	NT
53	トンボ目	トンボ科	ノシメトンボ	*Sympetrum infuscatum*	Cランク		NT
54	トンボ目	トンボ科	ミヤマアカネ	*Sympetrum pedemontanum elatum*	Cランク		NT
55	トンボ目	トンボ科	ヨツボシトンボ	*Libellula quadrimaculata*	Cランク		NT
56	トンボ目	ムカシトンボ科	ムカシトンボ	*Epiophlebia superstes*	Cランク		NT
57	トンボ目	ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ	*Tanypteryx pryeri*	Cランク		NT
58	トンボ目	ヤンマ科	オオルリボシヤンマ	*Aeschna nigroflava*	Cランク		NT
59	トンボ目	ヤンマ科	カトリヤンマ	*Gynacantha japonica*	Cランク		NT
60	トンボ目	ヤンマ科	マルタンヤンマ	*Anaciaeschna martini*	Cランク		NT
61	バッタ目	キリギリス科	カヤキリ	*Pseudorhynchus japonicus*	Cランク		
62	バッタ目	バッタ科	ナキイナゴ	*Mongolotettix japonicus*	Cランク		VU
63	バッタ目	バッタ科	ニセハネナガヒシバッタ	*Euparatettix dorsifer*	Cランク		
64	カメムシ目	コオイムシ科	オオコオイムシ	*Appasus major*	Cランク		
65	カメムシ目	セミ科	ハルゼミ	*Terpnosia vacua*	Cランク		NT
66	ハチ目	コマユバチ科	ウマノオバチ	*Euurobracon yokahamae*	Cランク	NT	VU

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（昆虫）

No.	目名	科名	種名	学名	能勢町 RL	環境省 RL	大阪府 RL
67	アミメカゲロウ目	ツノトンボ科	オオツノトンボ	*Protidricerus japonicus*	Cランク		
68	コウチュウ目	ホタル科	ヒメボタル	*Luciola parvula*	Cランク		
69	コウチュウ目	オサムシ科	ノトメクラチビゴミムシ	*Trechiama notoi*	Cランク		
70	チョウ目	シジミチョウ科	ウラミスジシジミ	*Wagimo signatus*	Cランク		VU
71	チョウ目	シジミチョウ科	ミドリシジミ	*Neozephyrus japonicus*	Cランク		NT
72	チョウ目	セセリチョウ科	アオバセセリ	*Choaspes benjaminii*	Cランク		NT
73	チョウ目	セセリチョウ科	オオチャバネセセリ	*Polytremis pellucida*	Cランク		NT
74	チョウ目	セセリチョウ科	ヒメキマダラセセリ	*Ochlodes ochraceus*	Cランク		NT
75	チョウ目	セセリチョウ科	ホソバセセリ	*Isoteinon lamprospilus*	Cランク		NT
76	チョウ目	セセリチョウ科	ミヤマセセリ	*Erynnis montanus*	Cランク		NT
77	チョウ目	タテハチョウ科	ヒメキマダラヒカゲ	*Zophoessa callipteris*	Cランク		NT
78	チョウ目	タテハチョウ科	ミスジチョウ	*Neptis philyra*	Cランク		NT
79	チョウ目	タテハチョウ科	ヤマキマダラヒカゲ	*Neope niphonica*	Cランク		NT
80	ハエ目	ガガンボモドキ科	イッシキガガンボモドキ	*Bittacus issikii*	Cランク		
81	バッタ目	キリギリス科	コバネヒメギス	*Chizuella bonneti*	情報不足		
82	バッタ目	キリギリス科	ヒメクサキリ	*Homorocoryphus jezoensis*	情報不足		
83	コウチュウ目	クワガタムシ科	アカアシクワガタ	*Dorcus rubrofemoratus*	情報不足		
84	コウチュウ目	ホタル科	ヘイケボタル	*Luciola lateralis*	情報不足		NT
85	チョウ目	ヤママユガ科	エゾヨツメ	*Aglia japonica*	情報不足	NT	

※本州のウラギンヒョウモンはサトウラギンヒョウモンとヤマウラギンヒョウモンに分類されたが、
能勢町での両種の識別の記録は無いので、従来の分類のままとした。

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（クモ類）

目名	科名	種名	学名	能勢町 RL	環境省 RL	大阪府 RL
クモ目	エンマグモ科	コマツエンマグモ	*Segestria nipponica* Kishida, 1913	情報不足	－	DD
クモ目	ヨリメグモ科	ヨリメグモ	*Conculus lyugadinus* Kishida, 1940	情報不足	－	－
クモ目	コガネグモ科	ヨツボシショウジョウグモ	*Hypsosinga pygmaea* (Sundevall, 1831)	情報不足	－	－
クモ目	コガネグモ科	ゲホウグモ	*Poltys illepidus* C. L. Koch, 1843	情報不足	－	DD

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（貝類）

綱/目名	科名	種名	学名	能勢町 RL	環境省 RL	大阪府 RL
（異歯亜綱）	ドブシジミ科	マメシジミ属	*Pisidium sp.*	Aランク		CR+EN
（リソツボ型クレード）	エゾマメタニシ科	マメタニシ	*Parafossarulus manchouricus japonicus*	Bランク	VU	CR+EN
マルスダレガイ目	シジミ科	マシジミ	*Corbicula leana*	Bランク	VU	VU
柄眼目	キセルガイ科	オオギセル	*Megalophaedusa martensi*	Bランク	NT	CR+EN
柄眼目	キセルガイ科	シリオレトノサマギセル	*Mundiphaedusa decapitata*	Bランク	NT	CR+EN
柄眼目	ナンバンマイマイ科	ヤマタカマイマイ	*Satsuma papilliformis*	Bランク	NT	
（新生腹足亜綱）	タニシ科	マルタニシ	*Cipangopaludina chinensis laeta*	Cランク	VU	VU
（新生腹足亜綱）	タニシ科	オオタニシ	*Cipangopaludina japonica*	Cランク	NT	VU
柄眼目	キセルガイ科	ホソヒメギセル	*Tyrannophaedusa gracilispira*	Cランク	VU	NT
柄眼目	オナジマイマイ科	コウベマイマイ	*Aegista kobensis kobensis*	Cランク		NT
水棲上目	ヒラマキガイ科	クルマヒラマキ	*Hippeutis cantori*	情報不足	VU	
水棲上目	ヒラマキガイ科	ヒラマキミズマイマイ	*Gyraulus chinensis spirillus*	情報不足	DD	
（アマオブネ形亜綱）	ゴマオカタニシ科	ゴマオカタニシ	*Georissa japonica*	情報不足	NT	VU
（新生腹足亜綱）	アズキガイ科	アズキガイ	*Pupinella rufa*	情報不足		NT
柄眼目	キセルモドキ科	キセルモドキ	*Mirus reinianus*	情報不足		
柄眼目	キバサナギガイ科	キバサナギガイ	*Vertigo hirasei*	情報不足	CR+EN	
柄眼目	ナンバンマイマイ科	ケハダビロウドマイマイ	*Nipponochloritis fragilis*	情報不足	NT	VU

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（維管束植物）

No.	目名	科名	種名	学名	能勢町 RL	環境省 RL	大阪府 RL
1	ヒカゲノカズラ目	ヒカゲノカズラ科	スギラン	*Huperzia cryptomerina* (Maxim.) Dixit	絶滅	VU	EX
2	ヒカゲノカズラ目	ヒカゲノカズラ科	ヤチスギラン	*Lycopodiella inundata* (L.) Holub	絶滅		CR＋EN
3	サンショウモ目	サンショウモ科	オオアカウキクサ	*Azolla japonica* (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai	絶滅	EN	EX
4	キジカクシ目	ラン科	ムカゴソウ	*Herminium angustifolium* (Lindl.) Benth. et Hook.f.	絶滅	EN	EX
5	キジカクシ目	キンバイザサ科	コキンバイザサ	*Hypoxis aurea* Lour.	絶滅		EX
6	イネ目	ホシクサ科	ゴマシオホシクサ	*Eriocaulon nepalense* Presc. ex Bong.	絶滅	EN	EX
7	イネ目	イネ科	ヒゲシバ	*Sporobolus japonicus* (Steud.) Maxim. ex Rendle	絶滅		EX
8	キンポウゲ目	キンポウゲ科	エンコウソウ	*Caltha palustris* L. *var. enkoso* H.Hara	絶滅		EX
9	キンポウゲ目	キンポウゲ科	セツブンソウ	*Eranthis pinnatifida* Maxim.	絶滅	NT	CR＋EN
10	キンポウゲ目	キンポウゲ科	オキナグサ	*Pulsatilla cernua* (Thunb.) Berchtold et J.Presl	絶滅	VU	CR＋EN
11	キンポウゲ目	キンポウゲ科	オトコゼリ	*Ranunculus tachiroei* Franch. et Sav.	絶滅		EX
12	ユキノシタ目	ユキノシタ科	ヤグルマソウ	*Rodgersia podophylla* A.Gray	絶滅		EX
13	マメ目	マメ科	ヒメノハギ	*Leptodesmia microphylla* (Thunb.) H.Ohashi et K.Ohashi	絶滅		EX
14	バラ目	ニレ科	ハルニレ	*Ulmus davidiana* Planch. *var. japonica* (Rehder) Nakai	絶滅		EX
15	ナデシコ目	ナデシコ科	オグラセンノウ	*Silene kiusiana* (Makino) H.Ohashi et H.Nakai	絶滅	VU	EX
16	ツツジ目	サクラソウ科	クサレダマ	*Lysimachia vulgaris* L. *subsp. davurica* (Ledeb.) Tatew.	絶滅		CR＋EN
17	シソ目	シソ科	ヤマジソ	*Mosla japonica* (Benth. ex Oliv.) Maxim.	絶滅	NT	EX
18	キク目	キク科	カワラハハコ	*Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook.f. *var. yedoensis* (Franch. et Sav.) Ohwi	絶滅		EX
19	キク目	キク科	モリアザミ	*Cirsium dipsacolepis* (Maxim.) Matsum.	絶滅		EX
20	キク目	キク科	カセンソウ	*Inula salicina* L. *var. asiatica* Kitam.	絶滅		EX
21	キク目	キク科	アキノハハコグサ	*Pseudognaphalium hypoleucum* (DC.) Hilliard et B.L.Burtt	絶滅	EN	EX
22	キク目	キク科	ミヤコアザミ	*Saussurea maximowiczii* Herder	絶滅		EX
23	キク目	キク科	ヒメヒゴタイ	*Saussurea pulchella* (Fisch. ex Hornem.) Fisch.	絶滅	VU	EX
24	マツムシソウ目	スイカズラ科	マツムシソウ	*Scabiosa japonica* Miq. *var. japonica*	絶滅		EX
25	セリ目	セリ科	ヌマゼリ	*Sium suave* Walter *var. nipponicum* (Maxim.) H.Hara	絶滅	VU	EX
26	ハナヤスリ目	ハナヤスリ科	アカハナワラビ	*Botrychium nipponicum* Makino	A		CR＋EN

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（維管束植物）

No.	目名	科名	種名	学名	能勢町 RL	環境省 RL	大阪府 RL
27	ゼンマイ目	ゼンマイ科	ヤシャゼンマイ	*Osmunda lancea* Thunb.	A		
28	サンショウモ目	サンショウモ科	サンショウモ	*Salvinia natans* (L.) All.	A	VU	CR＋EN
29	ウラボシ目	オシダ科	タニヘゴ	*Dryopteris tokyoensis* (Makino) C.Chr.	A		CR＋EN
30	オモダカ目	オモダカ科	アギナシ	*Sagittaria aginashi* Makino	A	NT	CR＋EN
31	オモダカ目	トチカガミ科	ヤナギスブタ	*Blyxa japonica* (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke	A		CR＋EN
32	オモダカ目	トチカガミ科	サガミトリゲモ	*Najas chinensis* N.Z.Wang	A	VU	CR＋EN
33	オモダカ目	ヒルムシロ科	イトモ	*Potamogeton berchtoldii* Fieber	A	NT	CR＋EN
34	ユリ目	ユリ科	ヒロハノアマナ	*Amana erythronioides* (Baker) D.Y.Tan et D.Y.Hong	A		CR＋EN
35	キジカクシ目	ラン科	シラン	*Bletilla striata* (Thunb.) Rchb.f.	A	NT	CR＋EN
36	キジカクシ目	ラン科	ムギラン	*Bulbophyllum inconspicuum* Maxim.	A	NT	CR＋EN
37	キジカクシ目	ラン科	セッコク	*Dendrobium moniliforme* (L.) Sw.	A		CR＋EN
38	キジカクシ目	ラン科	ミズトンボ	*Habenaria sagittifera* Rchb.f.	A	VU	CR＋EN
39	キジカクシ目	ラン科	ヒナラン	*Hemipilia gracilis* (Blume) Y.Tang, H.Peng et T.Yukawa	A	EN	CR＋EN
40	キジカクシ目	ラン科	ウチョウラン	*Hemipilia graminifolia* (Rchb.f.) Y.Tang, H.Peng et T.Yukawa *var. graminifolia*	A	VU	CR＋EN
41	キジカクシ目	ラン科	ヤマサギソウ	*Platanthera mandarinorum* Rchb.f. *subsp. mandarinorum var. oreades* (Franch. et Sav.) Koidz.	A		CR＋EN
42	キジカクシ目	ラン科	コバノトンボソウ	*Platanthera nipponica* Makino *var. nipponica*	A		CR＋EN
43	キジカクシ目	ラン科	トキソウ	*Pogonia japonica* Rchb.f.	A	NT	CR＋EN
44	キジカクシ目	ラン科	ヤマトキソウ	*Pogonia minor* (Makino) Makino	A		CR＋EN
45	キジカクシ目	ラン科	クモラン	*Taeniophyllum glandulosum* Blume	A		CR＋EN
46	キジカクシ目	アヤメ科	ヒオウギ	*Iris domestica* (L.) Goldblatt et Mabb.	A		CR＋EN
47	キジカクシ目	アヤメ科	ノハナショウブ	*Iris ensata* Thunb. *var. spontanea* (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto	A		CR＋EN
48	キジカクシ目	ワスレグサ科	ユウスゲ	*Hemerocallis citrina* Baroni *var. vespertina* (H.Hara) M.Hotta	A		CR＋EN
49	イネ目	カヤツリグサ科	サトヤマハリスゲ	*Carex ruralis* J.Oda et Nagam.	A		CR＋EN
50	イネ目	カヤツリグサ科	ミカヅキグサ	*Rhynchospora alba* (L.) Vahl	A		CR＋EN
51	イネ目	カヤツリグサ科	オオイヌノハナヒゲ	*Rhynchospora fauriei* Franch.	A		CR＋EN
52	イネ目	カヤツリグサ科	イガクサ	*Rhynchospora rubra* (Lour.) Makino	A		CR＋EN

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（維管束植物）

No.	目名	科名	種名	学名	能勢町 RL	環境省 RL	大阪府 RL
53	キンポウゲ目	キンポウゲ科	フクジュソウ	*Adonis ramosa* Franch.	A		CR＋EN
54	ユキノシタ目	ボタン科	ベニバナヤマシャクヤク	*Paeonia obovata* Maxim.	A	NT	CR＋EN
55	ユキノシタ目	アリノトウグサ科	フサモ	*Myriophyllum verticillatum* L.	A		CR＋EN
56	マメ目	マメ科	マキエハギ	*Lespedeza virgata* (Thunb.) DC.	A		CR＋EN
57	マメ目	マメ科	ヨツバハギ	*Vicia nipponica* Matsum.	A		CR＋EN
58	ニシキギ目	ニシキギ科	ムラサキマユミ	*Euonymus lanceolatus* Yatabe	A		
59	キントラノオ目	オトギリソウ科	トモエソウ	*Hypericum ascyron* L. *subsp. ascyron var. ascyron*	A		CR＋EN
60	キントラノオ目	スミレ科	ヒゴスミレ	*Viola chaerophylloides* (Regel) W.Becker *var. sieboldiana* (Maxim.) Makino	A		VU
61	キントラノオ目	スミレ科	アカネスミレ	*Viola phalacrocarpa* Maxim.	A		CR＋EN
62	キントラノオ目	スミレ科	アケボノスミレ	*Viola rossii* Hemsl.	A		CR＋EN
63	ナデシコ目	モウセンゴケ科	イシモチソウ	*Drosera lunata* Buch.-Ham. ex DC.	A	NT	VU
64	ツツジ目	ツツジ科	マルバノイチヤクソウ	*Pyrola nephrophylla* (Andres) Andres	A		CR＋EN
65	リンドウ目	マチン科	アイナエ	*Mitrasacme pygmaea* R.Br.	A		CR＋EN
66	リンドウ目	キョウチクトウ科	フナバラソウ	*Vincetoxicum atratum* (Bunge) C.Morren et Decne.	A	VU	CR＋EN
67	シソ目	シソ科	キセワタ	*Leonurus macranthus* Maxim.	A	VU	CR＋EN
68	シソ目	ハマウツボ科	シオガマギク	*Pedicularis resupinata* L. *subsp. oppositifolia* (Miq.) T.Yamaz.	A		CR＋EN
69	シソ目	ハマウツボ科	ヒキヨモギ	*Siphonostegia chinensis* Benth. ex Hook. et Arn.	A		CR＋EN
70	シソ目	タヌキモ科	ムラサキミミカキグサ	*Utricularia uliginosa* Vahl	A	NT	CR＋EN
71	キク目	キク科	ノコギリソウ	*Achillea alpina* L. *subsp. alpina var. longiligulata* H.Hara	A		CR＋EN
72	キク目	キク科	サワシロギク	*Aster rugulosus* Maxim.	A		CR＋EN
73	キク目	キク科	オグルマ	*Inula britannica* L. *subsp. japonica* (Thunb.) Kitam.	A		CR＋EN
74	キク目	キク科	キクアザミ	*Saussurea ussuriensis* Maxim.	A		CR＋EN
75	キク目	キク科	ハバヤマボクチ	*Synurus excelsus* (Makino) Kitam.	A		CR＋EN
76	マツムシソウ目	スイカズラ科	カノコソウ	*Valeriana fauriei* Briq.	A		CR＋EN
77	セリ目	セリ科	カワラボウフウ	*Kitagawia terebinthacea* (Fisch. ex Trevir.) Pimenov	A		CR＋EN
78	セリ目	セリ科	イブキボウフウ	*Libanotis ugoensis* (Koidz.) Kitag. *var. japonica* (H.Boissieu) T.Yamaz.	A		CR＋EN

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（維管束植物）

No.	目名	科名	種名	学名	能勢町 RL	環境省 RL	大阪府 RL
79	ハナヤスリ目	ハナヤスリ科	ヒロハハナヤスリ	*Ophioglossum vulgatum* L.	B		VU
80	ゼンマイ目	ゼンマイ科	ヤマドリゼンマイ	*Osmundastrum cinnamomeum* (L.) C.Presl *var. fokiense* (Copel.) Tagawa	B		
81	ウラボシ目	チャセンシダ科	クモノスシダ	*Asplenium ruprechtii* Sa.Kurata	B		
82	ユリ目	シュロソウ科	シライトソウ	*Chionographis japonica* Maxim.	B		
83	ユリ目	シュロソウ科	ホソバシュロソウ	*Veratrum maackii* Regel *var. maackioides* (O.Loes.) H.Hara	B		VU
84	ユリ目	ユリ科	アマナ	*Amana edulis* (Miq.) Honda	B		
85	キジカクシ目	ラン科	ギンラン	*Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume	B		VU
86	キジカクシ目	ラン科	キンラン	*Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume	B	VU	VU
87	キジカクシ目	ラン科	トケンラン	*Cremastra unguiculata* (Finet) Finet	B	VU	
88	キジカクシ目	ラン科	シュンラン	*Cymbidium goeringii* (Rchb.f.) Rchb.f.	B		
89	キジカクシ目	ラン科	カキラン	*Epipactis thunbergii* A.Gray	B		
90	キジカクシ目	ラン科	サギソウ	*Habenaria radiata* (Thunb.) Spreng.	B	NT	VU
91	キジカクシ目	ラン科	コケイラン	*Oreorchis patens* (Lindl.) Lindl.	B		
92	キジカクシ目	ラン科	ジンバイソウ	*Platanthera florentii* Franch. et Sav.	B		
93	キジカクシ目	ラン科	ヒトツボクロ	*Tipularia japonica* Matsum.	B		VU
94	キジカクシ目	ワスレグサ科	ノカンゾウ	*Hemerocallis fulva* L. *var. disticha* (Donn ex Ker Gawl.) M.Hotta	B		VU
95	キジカクシ目	クサスギカズラ科	ミズギボウシ	*Hosta longissima* Honda ex F.Maek.	B		VU
96	イネ目	ガマ科	ナガエミクリ	*Sparganium japonicum* Rothert	B	NT	VU
97	イネ目	イグサ科	タマコウガイゼキショウ	*Juncus diastrophanthus* Buchenau *var. togakushiensis* (H.Lév.) Murata	B		
98	イネ目	カヤツリグサ科	マツカサススキ	*Scirpus mitsukurianus* Makino	B		VU
99	イネ目	カヤツリグサ科	コシンジュガヤ	*Scleria parvula* Steud.	B		VU
100	イネ目	イネ科	ウシクサ	*Schizachyrium brevifolium* (Sw.) Nees ex Büse	B		VU
101	キンポウゲ目	メギ科	メギ	*Berberis thunbergii* DC.	B		NT
102	マメ目	マメ科	タヌキマメ	*Crotalaria sessiliflora* L.	B		VU
103	マメ目	マメ科	イタチササゲ	*Lathyrus davidii* Hance	B		VU
104	マメ目	マメ科	フジキ	*Platyosprion platycarpum* (Maxim.) Maxim.	B		VU

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（維管束植物）

No.	目名	科名	種名	学名	能勢町 RL	環境省 RL	大阪府 RL
105	ニシキギ目	ニシキギ科	ウメバチソウ	*Parnassia palustris* L. *var. palustris*	B		VU
106	キントラノオ目	トウダイグサ科	ナツトウダイ	*Euphorbia sieboldiana* C.Morren et Decne.	B		
107	キントラノオ目	スミレ科	エイザンスミレ	*Viola eizanensis* (Makino) Makino	B		NT
108	アブラナ目	アブラナ科	ミズタガラシ	*Cardamine lyrata* Bunge	B		VU
109	ナデシコ目	ナデシコ科	カワラナデシコ	*Dianthus superbus* L. *var. longicalycinus* (Maxim.) F.N.Williams	B		
110	ナデシコ目	ナデシコ科	フシグロセンノウ	*Silene miqueliana* (Rohrb.) H.Ohashi et H.Nakai	B		
111	ツツジ目	ツリフネソウ科	キツリフネ	*Impatiens noli-tangere* L.	B		
112	ツツジ目	ツリフネソウ科	ツリフネソウ	*Impatiens textorii* Miq.	B		
113	ツツジ目	ツツジ科	ベニドウダン	*Enkianthus cernuus* (Siebold et Zucc.) Makino *f. rubens* (Maxim.) Ohwi	B		
114	ガリア目	ガリア科	アオキ	*Aucuba japonica* Thunb. *var. japonica*	B		
115	リンドウ目	リンドウ科	イヌセンブリ	*Swertia tosaensis* Makino	B	VU	VU
116	リンドウ目	キョウチクトウ科	タチカモメヅル	*Vincetoxicum glabrum* (Nakai) Kitag.	B		VU
117	リンドウ目	キョウチクトウ科	スズサイコ	*Vincetoxicum pycnostelma* Kitag.	B	NT	VU
118	シソ目	シソ科	ジュウニヒトエ	*Ajuga nipponensis* Makino	B		VU
119	シソ目	シソ科	ナツノタムラソウ	*Salvia lutescens* (Koidz.) Koidz. *var. intermedia* (Makino) Murata	B		VU
120	キク目	キキョウ科	キキョウ	*Platycodon grandiflorus* (Jacq.) A.DC.	B	VU	VU
121	キク目	キク科	ヤマジノギク	*Aster hispidus* Thunb. *var. hispidus*	B		VU
122	キク目	キク科	オケラ	*Atractylodes ovata* (Thunb.) DC.	B		VU
123	ウラボシ目	ウラボシ科	アオネカズラ	*Goniophlebium niponicum* (Mett.) Bedd.	C		NT
124	スイレン目	スイレン科	ヒツジグサ	*Nymphaea tetragona* Georgi	C		NT
125	オモダカ目	オモダカ科	ヘラオモダカ	*Alisma canaliculatum* A.Braun et C.D.Bouché	C		
126	オモダカ目	オモダカ科	ウリカワ	*Sagittaria pygmaea* Miq.	C		
127	オモダカ目	トチカガミ科	ミズオオバコ	*Ottelia alismoides* (L.) Pers.	C	VU	NT
128	オモダカ目	ヒルムシロ科	ササバモ	*Potamogeton wrightii* Morong	C		NT
129	ユリ目	ユリ科	ササユリ	*Lilium japonicum* Houtt.	C		
130	キジカクシ目	ラン科	エビネ	*Calanthe discolor* Lindl.	C	NT	NT

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（維管束植物）

No.	目名	科名	種名	学名	能勢町 RL	環境省 RL	大阪府 RL
131	イネ目	カヤツリグサ科	ビロードスゲ	*Carex miyabei* Franch.	C		NT
132	イネ目	カヤツリグサ科	コマツカサススキ	*Scirpus fuirenoides* Maxim.	C		NT
133	キンポウゲ目	キンポウゲ科	ユキワリイチゲ	*Anemone keiskeana* T.Itô ex Maxim.	C		NT
134	ユキノシタ目	ベンケイソウ科	ツメレンゲ	*Orostachys japonica* (Maxim.) A.Berger	C	NT	NT
135	マメ目	マメ科	カワラケツメイ	*Chamaecrista nomame* (Makino) H.Ohashi	C		NT
136	ブナ目	ブナ科	ミズナラ	*Quercus crispula* Blume *var. crispula*	C		
137	ブナ目	ブナ科	カシワ	*Quercus dentata* Thunb.	C		NT
138	アオイ目	ジンチョウゲ科	コガンピ	*Diplomorpha ganpi* (Siebold et Zucc.) Nakai	C		
139	ナデシコ目	モウセンゴケ科	モウセンゴケ	*Drosera rotundifolia* L.	C		NT
140	ナデシコ目	モウセンゴケ科	コモウセンゴケ	*Drosera spatulata* Labill.	C		NT
141	ツツジ目	ツツジ科	ウメガサソウ	*Chimaphila japonica* Miq.	C		NT
142	リンドウ目	アカネ科	イナモリソウ	*Pseudopyxis depressa* Miq.	C		NT
143	リンドウ目	リンドウ科	フデリンドウ	*Gentiana zollingeri* Fawc.	C		
144	ナス目	ヒルガオ科	ヒロハヒルガオ	*Calystegia sepium* (L.) R.Br. *subsp. spectabilis* Brummitt	C		NT
145	シソ目	ゴマノハグサ科	オオヒナノウスツボ	*Scrophularia kakudensis* Franch.	C		NT
146	シソ目	ハマウツボ科	オオヒキヨモギ	*Siphonostegia laeta* S.Moore	C		NT
147	シソ目	タヌキモ科	イヌタヌキモ	*Utricularia australis* R.Br.	C	NT	NT
148	キク目	キキョウ科	サワギキョウ	*Lobelia sessilifolia* Lamb.	C		NT
149	キク目	キク科	キセルアザミ	*Cirsium sieboldii* Miq.	C		
150	キク目	キク科	スイラン	*Hololeion krameri* (Franch. et Sav.) Kitam.	C		NT
151	キク目	キク科	オカオグルマ	*Tephroseris integrifolia* (L.) Holub *subsp. kirilowii* (Turcz. ex DC.) B.Nord.	C		NT
152	マツムシソウ目	スイカズラ科	オミナエシ	*Patrinia scabiosifolia* Link	C		NT
153	セリ目	セリ科	ムカゴニンジン	*Sium ninsi* L.	C		NT
154	セリ目	セリ科	カノツメソウ	*Spuriopimpinella* calycina (Maxim.) Kitag.	C		NT
155	キジカクシ目	アヤメ科	アヤメ	*Iris sanguinea* Hornem.	情報不足		DD

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（コケ植物）

No.	綱	目名	科名	種名	学名	能勢町RL	環境省RL	大阪府RL
1	蘚綱	ミズゴケ目	ミズゴケ科	コアナミズゴケ	*Sphagnum microporum* Warnst. ex Cardot	Aランク		CR+EN
2		スギゴケ目	スギゴケ科	ハリスギゴケ	*Polytrichum piliferum* Hedw.	Aランク		CR+EN
3		ヨツバゴケ目	ヨツバゴケ科	ヨツバゴケ	*Tetraphis pellucida* Hedw.	Bランク		
4		キセルゴケ目	キセルゴケ科	クマノゴケ	*Theriotia lorifolia* Cardot	Bランク	準絶滅危惧(NT)	NT
5		シッポゴケ目	シッポゴケ科	ヒメカモジゴケ	*Dicranum flagellare* Hedw.	Bランク		CR+EN
6		シッポゴケ目	シッポゴケ科	ナミシッポゴケ	*Dicranum polysetum* Sw.	Bランク		CR+EN
7		ハイゴケ目	イタチゴケ科	リスゴケ	*Dozya japonica Sande* Lac.	Bランク		VU
8		ハイゴケ目	ヒムロゴケ科	カトウゴケ	*Palisadula katoi* (Broth.) Z. Iwats.	Bランク	準絶滅危惧(NT)	VU
9		ハイゴケ目	シノブゴケ科	ミヤマギボウシゴケモドキ	*Anomodon abbreviatus* Mitt.	Bランク		CR+EN
10		ハイゴケ目	ツヤゴケ科	カラフトツヤゴケ	*Entodon scabridens* Lindb.	Bランク		VU
11		ミズゴケ目	ミズゴケ科	オオミズゴケ	*Sphagnum palustre* L.	Cランク	準絶滅危惧(NT)	VU
12		スギゴケ目	スギゴケ科	コセイタカスギゴケ	*Pogonatum contortum* (Brid.) Lesq.	Cランク		
13		シッポゴケ目	シッポゴケ科	タカネシッポゴケ	*Dicranum viride* (Sull. et Lesq.) Lindb. *var. hakkodense* (Cardot) Takaki	Cランク		
14		マゴケ目	ハリガネゴケ科	オオカサゴケ	*Rhodobryum giganteum* (Schwaegr.) Paris	Cランク		NT
15		マゴケ目	チョウチンゴケ科	ヤマトチョウチンゴケ	*Plagiomnium japonicum* (Lindb.) T. J. Kop.	Cランク		VU
16		アブラゴケ目	アブラゴケ科	ツガゴケ	*Distichophyllum maibarae* Besch.	Cランク		NT
17		ハイゴケ目	イタチゴケ科	イタチゴケ	*Leucodon sapporensis* Besch.	Cランク		NT
18		ハイゴケ目	ヒムロゴケ科	キノクニキヌタゴケ	*Palisadula chrysophylla* (Cardot) Toyama	Cランク		VU
19		ハイゴケ目	ハイゴケ科	エゾハイゴケ	*Hypnum lindbergii* Mitt.	Cランク		NT
20		ハイゴケ目	ハイゴケ科	コフサゴケ	*Rhytidiadelphus japonicus* (Reimers) T. J. Kop.	Cランク		NT
21		シッポゴケ目	キンシゴケ科	ヒメキンシゴケ	*Ditrichum macrorrhynchum* Broth.	情報不足		
22		タマゴケ目	タマゴケ科	エゾサワゴケ	*Philonotis yezoana* Besch. et Cardot	情報不足		NT
23		タチヒダゴケ目	タチヒダゴケ科	ホソミノゴケ	*Macrocoma tenue* (Hook. et Grev.) Vitt. *subsp. sullivantii* (Muell. Hal.) Vitt	情報不足		NT
24		タチヒダゴケ目	タチヒダゴケ科	コタチヒダゴケ	*Orthotrichum exiguum* Sull.	情報不足		DD
25		ハイゴケ目	コゴメゴケ科	ヤマトソリハゴケ	*Anacamptodon fortunei* Mitt.	情報不足		NT
26		ハイゴケ目	ウスグロゴケ科	ハイオカムラゴケ	*Okamuraea hakoniensis* (Mitt.) Broth. *fo. multiflagellifera* (S. Okam.) Nog.	情報不足		
			蘚類	**26種**				

能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（コケ植物）

No.	綱	目名	科名	種名	学名	能勢町RL	環境省RL	大阪府RL
27	苔綱	ツボミゴケ目	キリシマゴケ科	キリシマゴケ	*Herberta adunca* (Dicks.) Gray	Aランク		CR+EN
28		ツボミゴケ目	ツボミゴケ科	マイマイツボミゴケ	*Jungermanniaceae torticalyx* Steph.	Aランク		CR+EN
29		ツボミゴケ目	ツボミゴケ科	ハネツボミゴケ	*Jungermanniaceae plagiochiloides* Amak.	Bランク		VU
30		ツボミゴケ目	ミゾゴケ科	ホソミゾゴケ	*Marsupella pseudofunckii* Hatt.	Bランク		VU
31		ツボミゴケ目	ヒシャクゴケ科	ムラサキヒシャクゴケ	*Scapania undulata* (L.) Dum.	Bランク		VU
32		クラマゴケモド	クサリゴケ科	モーリッシュシゲリゴケ	*Tuyamaella molischii* (Schiffn.) Hatt.	Cランク		NT
33		ミズゼニゴケ目	ミズゼニゴケ科	エゾミズゼニゴケ	*Pellia neesiana* (Gott.) Limpr.	Cランク		VU
34		ゼニゴケ目	ウキゴケ科	ウキゴケ	*Riccia fluitans* L.	Cランク		VU
35		ゼニゴケ目	ウキゴケ科	イチョウウキゴケ	*Ricciocarpus natans* (L.) Corda	情報不足	準絶滅危惧（NT）	DD
			苔類	**9種**				

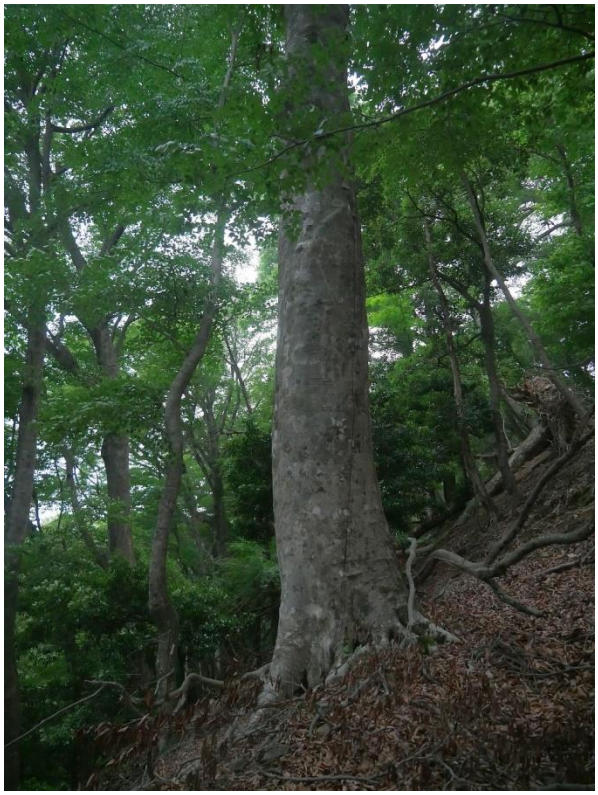
能勢町の大切にしたい生きものリスト2023（菌類）

目名	科名	種名	学名	能勢町 RL	環境省 RL	大阪府 RL
ハラタケ目	キシメジ科	マツタケ	*Tricholoma matsutake*	B ランク	NT	VU
ハラタケ目	イッポンシメジ科	ソライロタケ	*Entoloma virescens*	B ランク		VU
タマチョレイタケ目	タマチョレイタケ科	タマチョレイタケ	*Polyporus tuberaster*	B ランク		VU
ハラタケ目	ラッシタケ科	ウスキブナノミタケ	*Mycena sp.*	C ランク		NT
ハラタケ目	ホウライタケ科	ツキヨタケ	*Omphalotus guepiniformis*	C ランク		NT
ハラタケ目	ハラタケ科	スジチャダイゴケ	*Cyathus striatus*	C ランク		NT
ベニタケ目	ベニタケ科	アカモミタケ	*Lactarius laeticolor*	C ランク		NT
チャシブゴケ目	サルオガセ科	ヨコワサルオガセ	*Usnea diffracta*	C ランク		
ハラタケ目	テングタケ科	ニオイドクツルタケ	*Amanita oberwinklerana*	情報不足		DD
ハラタケ目	イッポンシメジ科	ワカクサウラベニタケ	*Entoloma incanum*	情報不足	DD	
ラッパタケ目	ラッパタケ科	フジウスタケ	*Gomphus fujisanensis*	情報不足		
ベニタケ目	ニンギョウタケモドキ科	ニンギョウタケ	*Albatrellus confluens*	情報不足	DD	
イボタケ目	マツバハリタケ科	クロカワ	*Boletopsis grisea*	情報不足	DD	
イボタケ目	マツバハリタケ科	シシタケ	*Sarcodon imbricatus*	情報不足	VU	
エウロチウム目	ツチダンゴキン科	コウボウフデ	*Pseudotulostoma japonicum*	情報不足	DD	

６．　能勢町の生物多様性を保全する上で大切な環境について

（１）妙見山頂のブナ林

標高660mでありながら、社寺林として保護されていたこともあり、ブナ林が保全された。この林は大阪府自然環境保全地域に指定され、林内には樹齢 300 年を超えるブナの大木やアカガシやウラジロノキの大木なども見られる。2022 年の調査では、ツキヨタケやウスキブナノミタケなどブナに付随する菌類も確認された。冷温帯に生息する様々な生物にとって重要な環境となっている。すでに関連団体がいろいろな対策を行われているが、規模が小さい林分であり、存続のためには十分な保護と管理などモニタリングが必要になるだろう。



妙見山のブナ大木

妙見山のアカガシ大木

（２）剣尾山と周辺の林

「剣尾花崗岩」からなり、急斜面と巨岩が特徴である。岩尾根の環境を好む植物が確認されており、ノスリの繁殖が記録されている地域でもある。

シカの増加によって、食害の影響を強く受けている地域で、林床の植生はかなり貧弱になっている。シカの食害を受けにくいアセビやウリハダカエデなどの植物が優占する林へと変わってきており、生物多様性の保全の観点からは心配される状況である。2022 年の調査では、マメシジミやヤマタカマイマイの殻なども確認された。

増えているウリハダカエデ

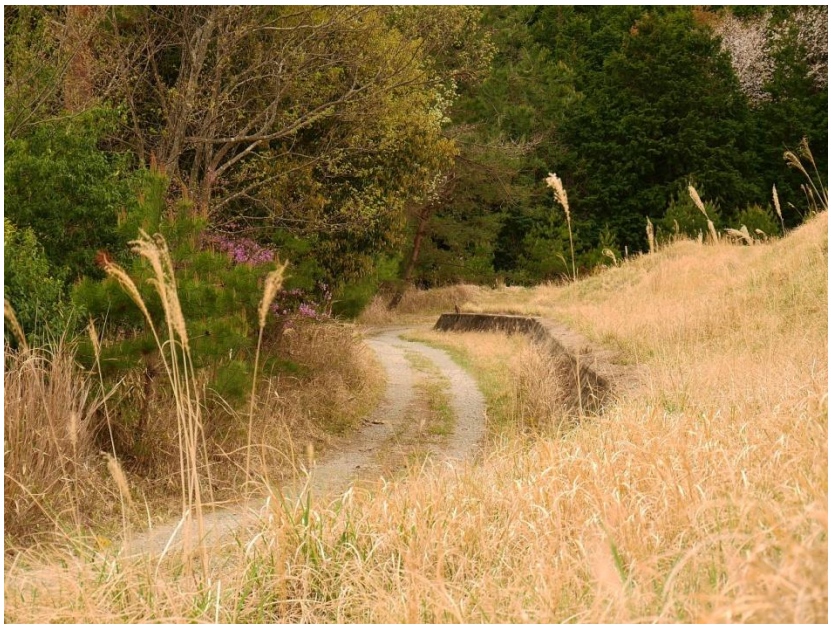
ヒメコマツの球果

（３）里山と草原環境

草地と林縁の組み合わさったような環境。吉野から倉垣、地黄、さらに宿野などの地域、さらに長谷等の集落を囲む里山環境などに代表される。古くから採草や栗などの果樹栽培、クヌギによる薪炭の生産に利用され、営農活動での定期的な伐採や採草によって草原環境が長期間にわたり維持された場所。営農活動がなくなると、やがて藪になることが予想される。

2022 年の調査では、オミナエシやシライトソウ、キンラン、ノカンゾウ、フシグロセンノウ、ユキワリイチゲ、ウメバチソウなどが確認された。

三草山のナラガシワを主体とする広葉樹林は、三草山ゼフィルスの森として、大阪府緑地環境保全地域にも指定され、公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会により保全活動が行われている。



キツネの住む草地環境

「台場クヌギ」の樹形

（４）山裾の湿地環境

剣尾山麓の野外活動センター跡の山裾にみられるような小規模な湿地群などは、湿地性の生きもののすみ場所として重要である。花崗岩地の湿地は貧栄養な条件が保たれやすく、ミズゴケやモウセンゴケなどの植物、モリアオガエルやヒキガエルなどの両生類、ハッチョウトンボなどの昆虫など多くの希少な動物の生息地となっている。冬期も水が保たれることもとても大切で、保全のためには定期的なモニタリングも有効と考えられる。

府内唯一の滲水湿地である地黄湿地は、大阪府緑地環境保全地域にも指定され、公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会により保全活動が行われている。

山裾に点在する小さな湿地

湿地に生えるモウセンゴケ

（５）水田や周辺の水辺環境

能勢の各盆地に広がる水田は、ダルマガエルや在来型のドジョウの生息が見られる貴重な場所となっている。冬も水が保たれることによって、湿地性の生きもののすみ場所となる。長谷の棚田など人と自然が作り上げた景観としても大切にしたい。

水田の環境

水草の多い　ため池

（６）渓流域の良好な河川環境

能勢町の渓流域は、カジカやナガレホトケドジョウ、オオサンショウウオ、ヒダサンショウウオなどの希少動植物のすみ場所となっている。渓流沿いの自然林は水源涵養や水質の維持にも大切な働きをしており、豊かな生態系を育む基盤となっている。

カジカガエルの鳴く渓谷

河川周辺の雑木林

＜コラム＞　淡水紅藻類のカワモズクの仲間

今回の調査対象外の分類群であるが、コラムとして記録を書き留めたい。

2022 年 5 月、大阪府能勢町山裾の2地点で、湧水中に生えるカワモズク類を採取した。カワモズク類は食用海苔に用いられるアマノリなどと同じ紅藻類になる。

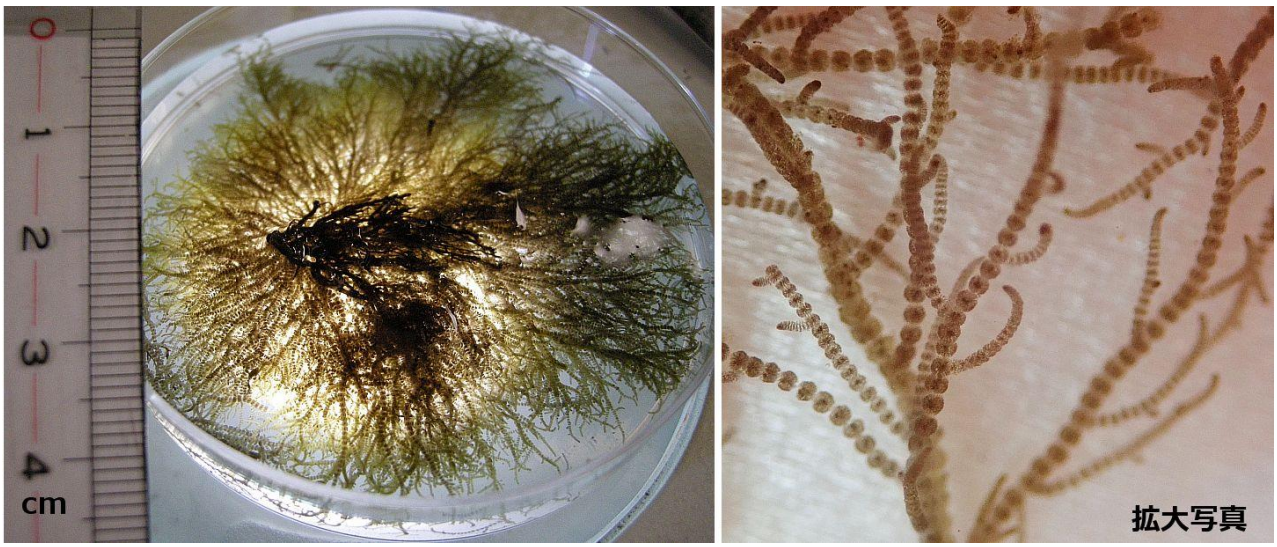
標本を東京海洋大学の神谷充伸教授に同定依頼したところ、同大修士課程の北野瑞生氏が調べてくださり、2地点ともタニガワカワモズク *Visia turgida* と同定された。

タニガワカワモズクは、輪生枝叢の直径が 500 μm までにしかならないこと、細長い円柱形の受精毛（造果器の精子が付着する部分）を持つこと、発達中の果胞子体が倒円錐形になることなどで他種のカワモズク類と区別される。日本産のカワモズク類は、環境省レッドリスト 2020 では 22 分類群が載っており、タニガワカワモズクは絶滅危惧 II 類にされ、和名の通り、山間渓流の源流近くの水中の岩や礫に付着し、晩秋から春の時期に見られるとされている。また、兵庫県レッドリストでは、A ランクにされている。

藻類は多様な生物で、コンブのように大きくなるものから顕微鏡で見ないと見えないような小さなものまで、海水中や淡水中、陸上など色々な場所に生育している。淡水に生育するカワモズク類は目立たず、一般に関心がもたれることも少なく、どんな種類がどこに生育しているのか知られる前に、絶滅の危機にさらされてしまうことが懸念される。

能勢町での産地も今回の 2 地点以外に見つかる可能性が高いが、山間の源流部などの小さな沢の保全や山林の植生の維持管理が、湧水を保ち様々な生きものを育む環境を守ることに繋がるだろう。

（文：道盛正樹）



撮影：丸山健一郎（2022.5.4 能勢町）

１．　調査体制

能勢町生物多様性基礎調査プロジェクトチーム

氏名	所属	主な担当分野
平井　規央	大阪公立大学大学院　農学研究科	（委員長） 昆虫・両生類
和田　岳	大阪市立自然史博物館	哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類
佐久間大輔	大阪市立自然史博物館	菌類・生物多様性全般
石田　惣	大阪市立自然史博物館	陸産貝類・淡水産貝類 無脊椎動物
松本吏樹郎	大阪市立自然史博物館	昆虫
横川　昌史	大阪市立自然史博物館	維管束植物
上原　一彦 2021 平松　和也 2022	大阪府立環境農林水産総合研究所 生物多様性センター	魚類
天満　和久	貝塚市立自然遊学館	昆虫・普及
道盛　正樹	認定 NPO 法人　大阪自然史センター	コケ植物・事務局
丸山健一郎	認定 NPO 法人　大阪自然史センター	菌類

＜現地調査協力および情報提供＞

【全般・現地調査】

前田　満、奥畑　司、森村　茂之、井上　克美、増子　修一、西澤　真樹子、米沢　里美、
天満　和久、大久保　その子、池田　裕介、藤本　龍之介、阿部　麟太郎、道盛　正樹、
丸山　健一郎、飯野　博道、阪上　和男、上野　早妥佳、
Facebook グループ「生き物大好き！能勢」の皆様、能勢町産業建設部地域振興課の皆様

【哺乳類】

和田　岳、浦野　信孝、塩田　廣大、常俊　容子、上野　早妥佳、前田　満、山本　憲一、
森　慶典、米沢　里美、西澤　真樹子

【鳥類】

和田　岳、前田　満、日本野鳥の会大阪支部、サシバプロジェクト in 大阪

【爬虫類】

和田　岳、浦野　信孝、大沼　弘一、常俊　容子、上野　早妥佳、前田　満、山本　憲一、
阪上　和男

【両生類】
和田　岳、秋田　耕作、前田　満、藤田　俊兒

【魚類】
平松　和也、上原　一彦、山本　義彦、山口　翔吾、今川　愛佑美、阿部　晟大、花崎　勝司、
前田　満、梅本　大世、奥　陽太、神谷　剛輝、(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

【昆虫】
平井　規央、松本　吏樹郎、天満　和久、前田　満、元古　隆博、上田　昇平、辻本　実穂、
藤井　旭、中尾　隆暉、竹田　裕生、西　雅刀、福田　琳之介、鈴木　真裕、小林　茂樹、
田中　彩恵、石井　実、広渡　俊哉、上田　貴士、佐藤　良平、大野　泰史、上田　達也、
信岡　淳史、澤田　義弘、金田　猛、小林　幸司、松本　竜太朗、向井　康夫、馬場　直人、
江田　慧子、湯浅　淳子、池田　裕介、藤原　一旭、鞍井　希凪

【クモ類】
加村　隆英、清水　裕行、上田　昇平、中尾　隆暉、西　雅刀、西川　喜朗、道盛　正樹

【淡水産貝類】
石田　惣、増田　修、前田　満

【陸産貝類】
石田　惣、大古場　正、前田　満

【維管束植物】
横川　昌史、梅原　徹、山住　一郎、前田　満、南里　典由、天満　和久、長谷川　匡弘、
丸山　健一郎

【コケ植物】
道盛　正樹、木村　全邦

【菌類】
丸山　健一郎、佐久間　大輔、前田　満、元古　隆博、箕浦　麻里子、山本　ゆきこ、
大久保 雅弘

【その他】
神谷　充伸、北野　瑞生

(敬称略・順不同)

能勢町の大切にしたい生きもの

令和 5(2023)年 3月

発行 能勢の里山活力創造推進協議会
事務局 能勢町 産業建設部 地域振興課
〒563-0392 大阪府豊能郡能勢町宿野 28
電話番号 072-734-0001 ファックス 072-734-2064

編集 認定 NPO 法人 大阪自然史センター